長野県埋蔵文化財センター年報 20

2003

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター年報20

2003

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

茅野市　中村・外垣外遺跡八稜鏡出土状態

千曲市　社宮司遺跡出土六角木幢仏画

目　次

口絵写真

茅野市　　中村・外垣外遺跡八稜鏡出土状態（上）

千曲市　　社宮司遺跡出土六角木幢仏画（下）

目次

Ⅰ　発掘調査及び整理作業の概要……1

1　仲町遺跡遺跡ほか……3

2　月岡遺跡……5

3　千田遺跡……6

4　川久保遺跡……7

5　峯謡坂遺跡ほか……8

6　力石条里遺跡群……12

7　天神城跡……14

8　北畑遺跡……15

9　野火附城跡……16

10　離山遺跡……17

11　矢出川遺跡群……17

12　三分遺跡……18

13　唐松Ｂ遺跡……19

14　馬込遺跡……20

15　肩平・菅ノ沢遺跡ほか……21

16　三角原遺跡……23

17　中村・外垣外遺跡……24

18　箕輪遺跡群……25

19　原林遺跡……26

20　竹佐中原遺跡ほか……27

Ⅱ　普及・公開活動の概要

1　現地説明会……30

2　展示会等……31

3　指導……33

4　刊行物……33

Ⅲ　機構・事業の概要

1　機構……34

2　事業……34

平成15年度役員および職員……39

Ⅰ　発掘調査及び整理作業の概要

平成15年度の発掘調査は公団・国事業として高速道路、新幹線、高規格道路、国道バイパス、国営公園、千曲川築堤、排水路関連の８事業、県事業では県道改良・バイパス、国道バイパス、広域農道関連の７事業を対象とした。整理作業は国事業の国道バイパス、高規格道路の２事業、県事業の国道バイパス、県道改良、畑地帯総合整備の３事業を対象とした。

以下、実施事業の概要を一覧表に示す。

[発掘調査]

北陸新幹線関連

所在地	遺跡名	調査面数	調査面積 m²	調査期間	調査状況	主な検出遺構	主な出土遺物
中野市	月　岡	1	3,100	15/ 5 /15 ～10/11	終了	中世土坑（柱穴）、竪穴建物跡、経塚	弥生土器、中世陶磁器、経石

千曲川替佐築堤関連

豊田村	千　田	1	1,500	15/ 7 / 7 ～ 8 /28	継続	古墳時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡	縄文前期土器・石器、古墳後期土器、
	川久保	2	試掘対象 15,000	15/12/ 1 ～12/ 5	継続	竪穴住居跡、溝跡、水田跡？	古墳後期～平安土器

国道18号坂城更埴バイパス関連

千曲市	峯謡坂	1	2,890	15/ 4 /14 ～10/10	継続	古墳～平安時代竪穴住居跡、墓壙、土坑	縄文晩期後半土器、弥生中期土器・石器、古墳後期土器、平安土器、人骨、馬骨
	東　條	1	1,070		継続	古墳～平安時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑	古墳後期～平安土器、ミニチュア土器、珠文鏡

県道力石バイパス関連

千曲市	力石条里遺跡群	3	8,948	15/ 4 / 7 ～/12/22	継続	弥生時代中期～古墳時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑 古墳時代水田跡	縄文晩期、弥生前期末～中期初頭土器・石器・土偶 弥生後期土器・石器　古墳土器・石器、古代土器　中・近世陶磁器

県道天神バイパス関連

望月町	天神城跡	1	2,000	15/10/15 ～12/11	継続	近世に遡る可能性のある盛土	内耳土器、中・近世陶磁器

中部横断自動車道関連

佐久市	北　畑	2	10,000	15/ 4 / 7 ～11/28	終了	水田跡、土坑、溝跡、自然流路	縄文土器・石器、弥生土器・石器、平安時代土器
	野火附	1	10,000	15/ 7 /24 ～12/12	継続	古墳時代後期～終末期の集落	古墳後期土器・石器、玉類

県道田口バイパス関連

臼田町	三　分	2	8,000	15/ 4 / 7 ～9/30	終了	古墳周溝、土坑、溝	縄文石器、古墳土師器・須恵器、近世陶磁器

県道川上佐久線改良関連

臼田町	唐松B	1	5,000	15/ 5 / 6 ～10/16	終了	縄文・平安時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥し穴、土坑	縄文中期土器・石器、弥生中期土器、平安土師器・須恵器、内耳土器

広域農道佐久南部関連

八千穂村	馬　込	1	10,000	15/ 9 / 1 ～12/25	終了	竪穴状遺構、土坑、焼土跡	縄文後期土器、石器 中・近世陶磁器

国営アルプスあづみの公園関連

大町市	肩　平	1	5,600	15/ 5 /27 ～10/31	終了	縄文時代土坑、集石、中世掘立柱建物跡、土坑	縄文早期～中期土器・石器 中世陶磁器、鉄製品、銭貨
	菅ノ沢	1	1,200		終了	古墳後期・平安時代竪穴住居跡、土坑	弥生後期土器、古墳後期土器、平安土器、製鉄関連遺物
	山の神	1	試掘対象 600		終了		
	寺海戸	1	試掘対象 1,500		終了		

あづみ野排水路関連

三郷村	三角原	1	8,700	15/ 5 / 6 ～10/31	終了	平安時代竪穴住居跡、土坑	縄文土器・石器、平安土器、鉄器、鉄滓、銭貨

国道20号坂室バイパス関連

茅野市	中村・外垣外	1	4,200	15/ 6 / 4 ～10/ 3	終了	縄文時代中・晩期遺物集中、弥生時代竪穴住居跡、平安～中世掘立柱建物跡、土坑	縄文土器・石器、弥生後期土器・石器 平安～中世八稜鏡、鉄鐸、鉄製品、銭貨

国道153号伊那バイパス関連

箕輪町	箕輪遺跡群	1	1,300	15/ 4 / 3 ～ 5 / 1	終了	弥生・古墳時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡、水田跡	弥生・古墳土器・石器

県単農免道路関連

飯島町	原　林	1	700	15/10/29 ～12/12	終了	縄文時代竪穴住居跡	縄文中期後半土器・石器

国道474号飯喬道路関連

飯田市	竹佐中原	2	12,500	15/ 4 / 8 ～10/23	継続	縄文中期竪穴住居跡	旧石器剥片
	森　林	1	4,300		終了		旧石器剥片
	下り松	1	4,500		終了	縄文中期竪穴住居跡、土坑	縄文時代土器・石器
	山本大塚	1	4,400		終了	土坑、溝	縄文土器・石器、中世以降陶磁器、金属製品、銭貨
	白　山	1	40		終了		
	寺　沢	1	260		終了		
	赤羽原	1	230		継続	土器埋設遺構	平安以降土器
	久米ヶ城跡	1	踏査		継続		
	川路大明神原	1	260		継続		

［整理作業］

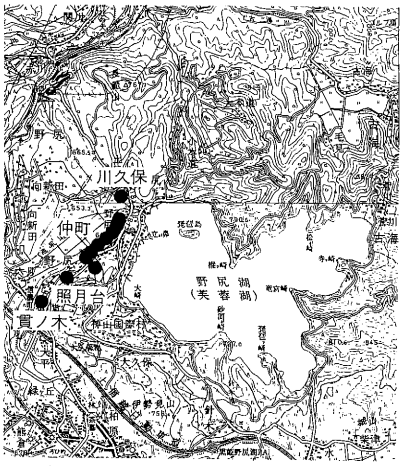
事業名	所在地	遺跡名	作業内容
国道18号野尻バイパス関連	信濃町	仲町ほか	遺物実測、トレース、図版組み、原稿執筆、印刷刊行
国道18号坂城更埴バイパス関連	千曲市	社宮司ほか	遺物接合、木器実測、図面整理、原稿執筆
県道川上佐久線改良関連	臼田町	離山	遺物実測、図面整理、図版作成、原稿執筆、印刷刊行
畑地帯総合整備事業関連	南牧村	矢出川遺跡群	図面整理、図版作成、原稿執筆、印刷刊行
国道153号伊那バイパス関連	箕輪町	箕輪遺跡群	遺物実測・トレース、図面整理
国道474号飯喬道路関連	飯田市	竹佐中原ほか	図面整理、台帳作成

1　仲町遺跡ほか（国道18号野尻バイパス関連・整理作業）

担　当　者：鶴田典昭　谷　和隆
　　中島英子　山崎まゆみ

経過と本年度の作業

野尻バイパス建設にかかわり、平成11年度から平成14年度にかけて、信濃町内４遺跡の発掘調査を実施した。整理作業は平成14年度から実施し、本年度は、遺物の接合・実測・トレース、遺構図のトレース、図版組み、遺物写真撮影、原稿執筆などを行った。以下に、各遺跡の概要をまとめ、整理作業で明らかとなった成果の一部を報告する。これら４遺跡の発掘調査報告書は平成16年３月に刊行予定である。



第１図　調査地点の位置（1：100,000）

遺跡の概要

仲町遺跡：調査面積は24,000㎡。旧石器時代から近世に至るあらゆる時代の遺構・遺物が検出された。中でも、旧石器時代、縄文時代草創期・早期・後期・晩期、古墳時代前期・中期、奈良・平安時代、中世・近世の遺物が豊富に出土した。旧石器時代では、斧形石器を伴う環状ブロック群が検出された他、複数時期にわたる石器群が出土した。縄文時代では、草創期の隆起線文土器、円孔文土器、爪形文土器、多縄文土器、表裏縄文土器など多数の土器群と石器群が注目される。古墳時代では、近接する川久保遺跡と同時期の土器がまとまって出土した。古代では平安時代の竪穴住居跡が５棟確認され、信濃町内で調査されたいずれの集落跡よりも古いことが確認された。野尻湖畔は東山道支道の沼辺駅との関わりが想起されるが、駅関連の資料は確認されなかった。中世以降では道跡、建物跡などが確認され、北国街道野尻宿関連の遺構も調査した。

貫ノ木遺跡・照月台遺跡：調査面積は貫ノ木遺跡2,940㎡、照月台遺跡4,780㎡となる。出土遺物は旧石器時代を主体とするが、縄文時代草創期・早期・前期の土器が出土している。旧石器時代の石器群はAT降灰前後のもので、これまでの野尻湖遺跡群の調査事例では、あまり確認されていない石器群がまとまって出土した。

川久保遺跡：調査面積6,500㎡。古墳時代前期・中期の土器群がまとまって出土したが、遺構は確認されなかった。Ｓ字口縁台付甕Ｃ類、叩き調整の甕、擬凹線文の甕形土器など多地域の土器が確認されている。遺物群の中には石製模造品、銀環などが含まれる。信濃町では初めての古墳時代の調査例であり、隣接する新潟県妙高村の同時期の遺跡（大洞原Ｃ遺跡、小野沢西遺跡など）との関わりが注目される。

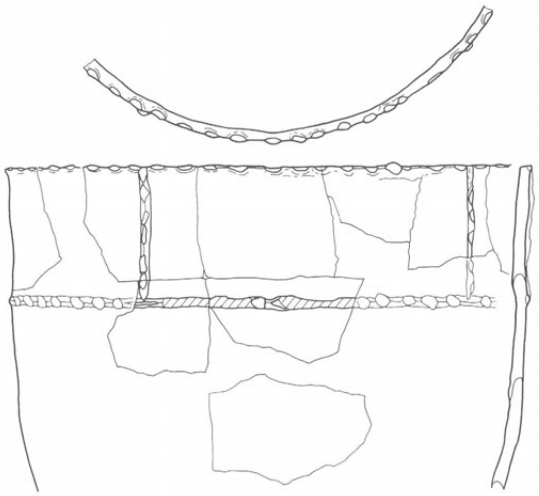
貫ノ木遺跡・仲町遺跡出土土器の付着炭化物年代測定

貫ノ木遺跡、仲町遺跡出土の草創期土器内面付着炭化物の炭素14年代測定（AMS法）を実施した。分析結果を第１表に示す。貫ノ木遺跡の２点は同一個体の破片資料であり、底部を欠

くが、上半部は三分の一ほどが残存する土器である。一個体が単独で出土したのみで、共伴遺物はない。仲町遺跡は砂礫層より出土した土器である。砂礫層では爪形文土器、隆起線文土器、円孔文土器が出土するが、主体は無文土器と円孔文（円形刺突文）土器である。円孔文土器の胎土は新潟県壬遺跡に類似するものを含んでいる。貫ノ木遺跡の年代は隆起線文土器の中でも古い値を示しており、類似する土器が出土した、久保寺南遺跡（新潟県津南町）の測定年代とも近似した値を示している。また、仲町遺跡の測定値は信濃町内の星光山荘B遺跡出土土器付着炭化物の測定結果（長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書49）に近似した値を示しており、円孔文土器を含めた草創期土器群の編年研究に新たなデータを加えた。

遺跡名	試料データ	”δ13CPDB (‰)	14C年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	1σ暦年代範囲
貫ノ木遺跡	土器内面炭質付着物 III層 No.53800（隆起線文）	−25.0	13,010±110	cal BC 13,695	cal BC 14,065−13,345（100%）
貫ノ木遺跡	土器内面炭質付着物 III層 No.53799（隆起線文）	−24.8	12,870±110	cal BC 13,555	cal BC 13,880−13,215（81.5%） cal BC 12,725−12,520（18.5%）
仲町遺跡	土器内面炭質付着物 国道C4・C7区 1層 No.46511（隆起線文）	−23.6	12,010±130	cal BC 12,120	cal BC 12,200−11,870（92.7%）
仲町遺跡	土器内面炭質付着物 国道C4区 1層 No.9052（円孔文）	−26.1	12,200±120	cal BC 12,185	cal BC 13,080−12,755（28.7%） cal BC 12,415−12,105（62.7%）
仲町遺跡	土器内面炭質付着物 国道C4区 1層 No.8232（円形刺突文）	−24.6	11,770±120	cal BC 11,865	cal BC 12,075−11,990（18.2%） cal BC 11,900−11,820（20.2%） cal BC 11,740−11,545（61.5%）
仲町遺跡	土器内面炭質付着物 国道C4区 1層 No.8228（円形刺突文）	−24.6	12,040±110	cal BC 12,130	cal BC 12,365−11,865（95.9%）
仲町遺跡	土器内面炭質付着物 国道C4区 1層 No.9686（無文）	−25.5	12,280±110	cal BC 12,325	cal BC 13,125−12,700（40.7%） cal BC 12,445−12,140（59.3%）

第1表　貫ノ木遺跡・仲町遺跡の放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果



第2図　貫ノ木遺跡の隆起線文土器（S：1/3）

第3図　仲町遺跡の円形刺突文土器（No.8228）（約3/4）

2　月岡遺跡（北陸新幹線関連）

所　在　地：中野市岩井月岡
調査期間：平成15年５月15日～10月11日
調査担当：市川隆之・中野亮一
調査面積：3100㎡
主な検出遺構：土坑・柱穴跡約1500、溝跡約30、竪穴建物跡１、経塚１
主な検出遺物：弥生土器、中世陶磁器、経石、銅銭、釘、銅製香炉ほか

第４図　月岡遺跡の位置（1：100,000）

月岡遺跡は高社山北西に延びる尾根山際の丘陵に立地する。前年度の試掘調査で中世遺構と弥生土器包含層が確認され、本年度面的調査を実施することとなった。調査地点は丘陵先端の傾斜がやや急になる地形変換点付近で比高差３～５ｍの段々畑状の平坦地が連続する地形となる。発掘調査ではこの平坦地内で掘立柱建物柱穴跡や溝跡が多数検出され、これらの平坦地が中世に造成された屋敷地であることが確認できた。また、山側にコ字状に配置される溝は雨水の進入を防ぐと共に屋敷地・建物群を区画するものと推測され、その配置状況から一つの平坦地内に複数の区画が並列、作り換えされていることが窺えた。特筆すべき出土遺物には前年度試掘調査の出土ながら銅製香炉、青磁碗などがある。本格的な整理が未着手なため遺跡時期の詳細は検討できていないが、出土陶磁器は12後～13世紀の所産が少量あるが、15世紀～16世紀前半頃の所産が主体である。

上記以外に調査区北西隅の丘陵端の尾根上で一字一石経塚が検出されている。経塚は浅い溝で方形に区画された内部に山石を方形に組んで多数の河川円礫を積み上げたものである。経石は積み上げられた河川円礫内から混在して出土した。

弥生時代の包含層は中世の造成で削り残された谷地形内にある。当該期の遺構は調査地内では検出されていないことから、丘陵上の傾斜が緩やかな場所が遺跡の中心で、そこから流出もしくは廃棄された土器がこの谷地形内に堆積したとみられる。時期は弥生後期が中心である。

第５図　①・②区全景

第６図　経塚検出状況

3　千田遺跡（千曲川堤防新設工事関連）

所　在　地：下水内郡豊田村大字豊津字千田　　調査担当者：西山克己

調査原因：千曲川堤防新設工事に伴う発掘調査

調査期間：平成15年７月７日～８月28日

調査面積：約1,500㎡

遺跡の立地：千曲川に面した段丘面上

遺跡の特徴：古墳時代後期の居住域および縄文時代前期の遺跡

主な検出遺構：竪穴住居跡１、掘立柱建物跡１、溝跡１、穴跡51ほか

主な出土遺物：古墳時代後期土器、縄文時代前期土器・石器

遺跡の概要

第７図　千田遺跡位置図
（1：100,000）

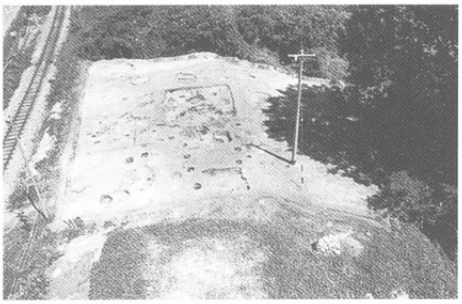
調査対象面積は約1,500㎡であったが、調査区南側約１/２についてはほとんどが攪乱となり遺構の確認はできなかった。遺物散布部分については、遺物の収集をおこなった。

今年度調査地区の立地は千曲川に面した段丘面上となり、河川堆積の影響が及びにくいこともあって埋没が浅く、縄文時代前期や古墳時代後期の遺物が多く確認された。おもな遺構については６世紀前半の古墳時代後期が中心となる。縄文時代前期の遺構については古墳時代後期の人々によって多くが壊されていた。

古墳時代後期の竪穴住居跡SB02は約6.8ｍ×7.0ｍを測り、石を芯材にし白粘土によって造られたカマドが北西壁中央に取り付けられていた。また間仕切り構造も確認され、初期カマドをもった典型的な住居跡であった。

このような竪穴住居構造の類例については、長野市内の長野高校敷地内における本村東沖遺跡や、飯田市内における殿原遺跡や前の山遺跡と言った５世紀後半代における各地域の中心的かつ先進的な集落に見られる。当遺跡での竪穴住居跡SB02は６世紀前半代の年代を示し、長野市内や飯田市内での類似例よりも時期が遅れるが、当地域におけるカマド構造を早い段階で受け入れた住居跡であろうと考えられる。また、この住居跡と１間×４間の古墳時代後期の掘立柱建物跡が軒を並べて構築されていた。平安時代の東北地方では、竪穴住居跡に掘立柱建物跡が付設した構造の建物跡が多く確認されている。しかし当遺跡の軒を並べた竪穴住居跡と掘立柱建物跡とでは地域的にも時代的にも隔たりが大きいことから、その性格付けについては今後の検討が必要である。

縄文時代の遺構については古墳時代後期の人々によって多くが壊されてしまい、穴跡や土器集中等の遺構となったが、出土土器から約6000年前の縄文時代前期中葉の遺跡が当地域にあることが確認できた。



第８図　調査区全景

4　川久保遺跡（千曲川堤防新設工事関連）

所　在　地：下水内郡豊田村大字豊津字川久保　　調査担当者：西山克己

調査原因：千曲川堤防新設工事に伴う発掘調査

調査期間：平成15年12月１日～12月５日

調査面積：約15,000㎡

遺跡の立地：千曲川と斑尾川に面した微高地上および低地

遺跡の特徴：古代から古墳時代後期にかけての集落域に加え、同時期の水田跡が発見される可能性がある。

主な検出遺構：竪穴住居跡、穴跡、溝跡、水田跡？、噴砂跡

主な検出遺物：古代から古墳時代後期にかけての土器

第９図　川久保遺跡の位置
（1：100,000）

遺跡の概要

トレンチによる試掘調査が可能な土地について、立地や地形を考慮しながら19地点のトレンチを設け、試掘調査をおこなった。このうちトレンチ２・３・５・11・12・13・15・17・18の９ヶ所で遺構・遺物の確認ができた。各トレンチの掘削深さについては様々であるが、一番深いところでは、現地表面より2.6ｍの掘削をおこなった。

トレンチ２では深さ0.7ｍ、1.3ｍ、1.5ｍにおいて古代や古墳時代後期の土器や焼土・穴跡を確認した。

トレンチ３では深さ1.4ｍにおいて古代か古墳時代後期の水田跡？を確認した。

トレンチ12では深さ0.5ｍから0.8ｍにかけて古代の土器片が多く出土し、深さ1.2ｍでは竪穴住居跡を確認した。非常に硬くしっかりとした貼り床の検出となった。また住居跡内から１個体と考えられる古代の土器片が多量に出土した。

トレンチ17では深さ0.35ｍから0.45ｍにかけて非常に多くの古代や古墳時代後期の土器片が出土し、深さ0.45ｍでは穴跡や焼土も確認できた。また同じ面において自然災害の跡として、大地震時に起こる液状化現象による噴砂跡も確認しえた。

古代および古墳時代後期の遺物の出土が多くあり、確認された遺構（穴跡・溝跡・竪穴住居跡）については、出土土器が示す時期のものであろうと考えられる。さらには水田跡とも考えられる遺構も確認された。平成14年度の斑尾川右岸沿いでの試掘調査でも水田跡らしきものが確認されていることから、その可能性は考えられる。また、トレンチ調査において遺構・遺物が確認できなかったところもあるが、今回の試掘調査をおこなった地域については、２面以上の検出面を包含した遺跡であることが判明した。

第10図　試掘トレンチ２　検出遺構

第11図　試掘トレンチ17
検出遺構と噴砂

5　峯謡坂遺跡ほか（国道18号坂城更埴バイパス線関連）

調査担当者：町田勝則　豊田義幸　寺内貴美子　石上周蔵

所　在　地：千曲市八幡字謡坂4535番地の１ほか
千曲市八幡字東條3906番地の１ほか

調査期間：平成15年４月14日～10月10日まで

調査面積：実質調査面積3,960㎡
（峯謡坂遺跡2,890㎡、東條遺跡1,070㎡）

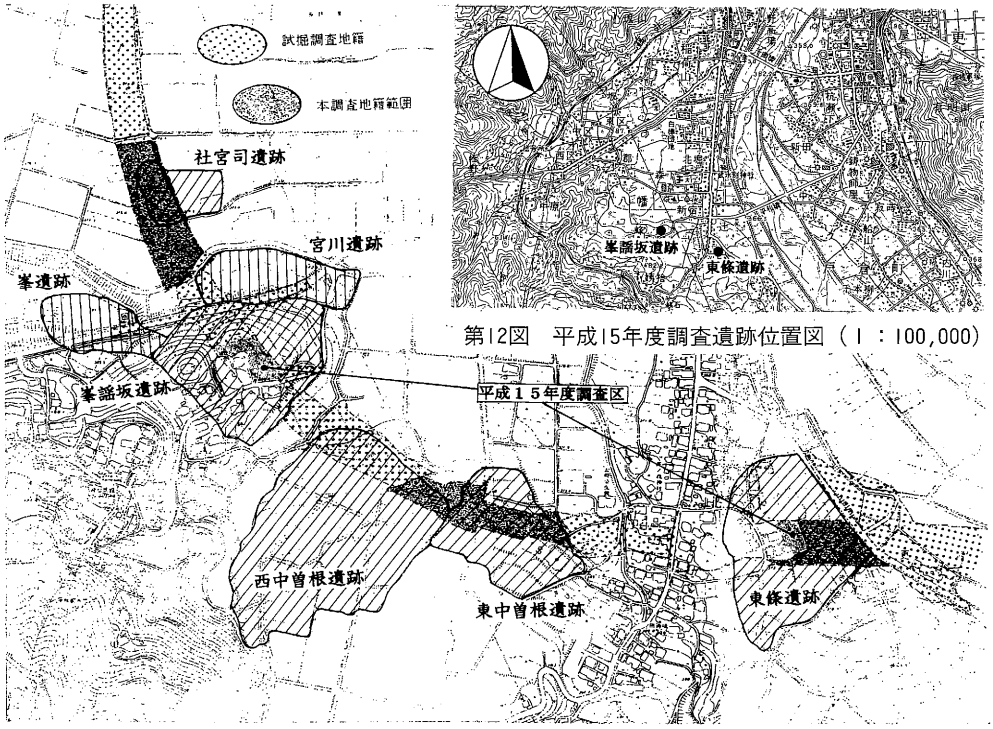
遺跡の立地：姨捨土石流台地

中心となる時代：古墳時代後期から平安時代

遺跡の特徴：千曲川左岸域（川西地区）に位置し、更埴西条里面と称する古代更級郡域の遺跡は、幾つかの小地域ごとに区分され、遺跡群として括られている。今回、発掘調査した峯謡坂遺跡と東條遺跡は、姨捨遺跡群と命名された群中にある。峯謡坂遺跡は弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡と登録され（市遺跡番号105）、東條遺跡は古墳時代から平安時代にかけての遺物散布地として登録（市遺跡番号118）されている。

検出遺構：峯謡坂遺跡…竪穴式住居跡13軒、墓跡２基、土坑136基、集石土坑５基、溝跡２本、性格不明の遺構12基
東條遺跡…竪穴式住居跡19軒、掘立柱建物跡６軒、土坑224基

第12図　平成15年度調査遺跡位置図（１：100,000）

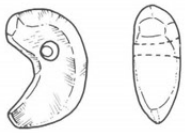


第13図　峯謡坂遺跡・東條遺跡の調査範囲

主な出土遺物：峯謡坂遺跡…縄文時代晩期後葉の土器・弥生時代中期初頭から中期の土器、打製石鏃・打製石斧、翡翠製勾玉、古墳時代後期の土器・平安時代の土師器・灰釉陶器、鉄製U字型鍬先・支柱状の鉄製品、平安時代と考えられる人骨２体、馬骨複数個体

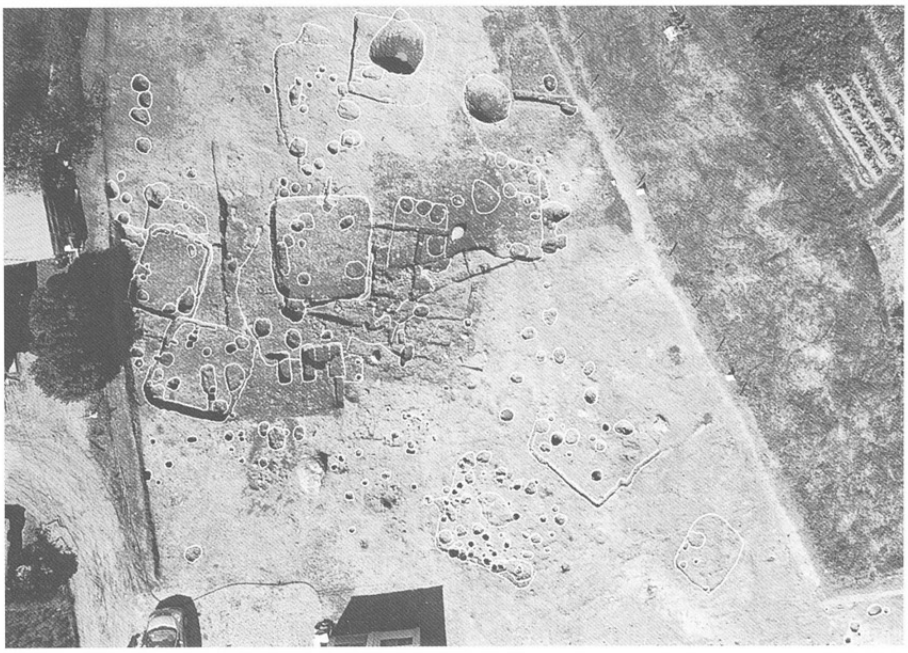
東　條遺跡…古墳時代後期の土器・奈良から平安時代の土師器・灰釉陶器・ミニチュア土器、羽口、珠文鏡、漆状の有機物

調査の概要：峯謡坂遺跡（遺跡番号105）は、昨年の試掘調査を受けて本調査を開始した遺跡である。台地の先端部に位置し、標高は390ｍほどである。宮川遺跡に面した北側の斜面部は、昨年の試掘調査により遺構・遺物が未発見であった。今回、台地面の買収地を中心に面的調査した結果、東西そして南北に流下する流路状の痕跡、そしていくつかの竪穴式住居跡と墓跡を確認した。流路状の痕跡は幅18ｍ、深さ50cmほどの規模を呈する黒色土の落ち込みであり、２本が存在する。



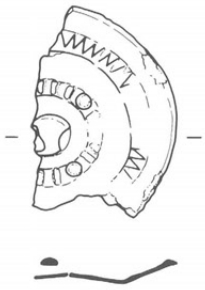
第14図　勾玉実測図（S＝１／２）

第15図　37号土坑遺物出土状況



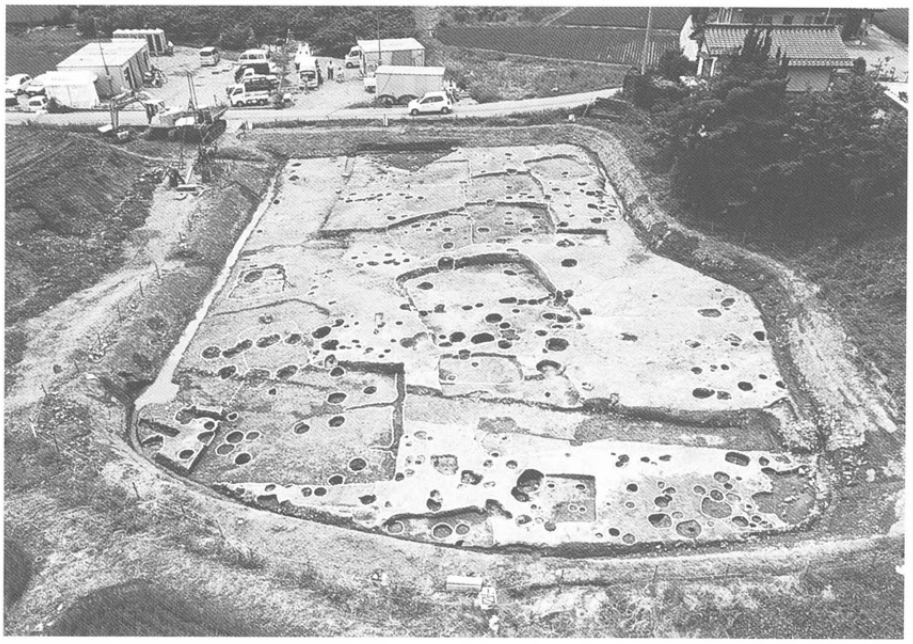
第16図　峯謡坂遺跡の15年度調査区全景

黒色土中には、縄文時代晩期後半から弥生時代後期にかけての土器破片、打製石鏃や打製石斧、勾玉（第14図）なども混在して出土しており、時期の特定は難しい。部分的な調査であり流路の性格を決しえないが、自然流路状の落ち込みであれば、包含された遺物の多くが流下物である可能性もでてくる。流路全体を把握できる次年度以降の調査に期待したい。竪穴式住居跡など時期決定可能な遺構は、古墳時代後期段階（7世紀後半ころ）から平安時代第3四半期（10世紀ころ）までが該当する。古墳後期の竪穴式住居跡は3軒を確認・調査したが、いずれも掘り込みが深く、壁の立ち上がりが明瞭で、北と西方向のカマドが中心である。平安時代の竪穴式住居跡は10軒を調査したが、カマドや壁の遺存状況が悪く、壁を部分的に消失した例も数軒確認できた。概ね北方向のカマドと判断できる。良好な一括出土土器のある37号土坑（第15図）や2基確認された井戸跡（10号・35号土坑）も平安時代に所属するものである。井戸跡



第17図　珠文鏡実測図（S＝1／2）

第18図　16号住居跡の珠文鏡出土状況



第19図　東條遺跡15年度調査区全景

は直径３ｍ、深さ1.8ｍほどの円形を呈する土坑であり、その規模と出水状況から井戸と推定した。１号墓跡と２号墓跡の出土人骨、及びその周辺より出土した馬骨片は、出土層位と土器破片から判断して、平安時代に帰属するものと考えられる。また特筆すべき遺物として、76号土坑より出土した鉄製のＵ字型鍬先がある。完形（２点接合）個体資料で、伴出土器から10世紀代と判断できる。

東條遺跡（遺跡番号118）は、千曲川の後背湿地に隣接した場所に立地し、標高は365ｍほどである。古墳時代後期から平安時代まで続く集落遺跡で、前年に引き続き、遺跡範囲の西側を調査した。竪穴式住居の構築年代は、古墳時代後期段階（７世紀後半ころ）からで、該期の住居跡を９軒ほど確認・調査した。住居跡は一辺８ｍほどの大型２軒を中心に、４ｍ規模、それ未満の例がある。掘立柱建物跡は時期決定が難しく、遺構間の切りあい関係から推定せざるをえないが、該期に所属する例も存在すると考えられる。大型住居と中型住居、そして掘立柱建物の組み合わせを集落構成単位として把握できる好例と言えよう。大型住居SB16の埋土中からは珠文鏡（第17・18図）一面が出土し、中型住居であるSB18からは須恵器の瑠１個が一穴式の甑２個に納められるような状態で出土した。またいくつかの住居跡床面から、大型の礫石錘がまとまって出土した点は留意される。いずれの住居跡もカマドの遺存状況が著しく悪く、火床のみが確認できたに留まり、北向きカマドが中心である。奈良時代以降に属する住居跡は、時期決定できる資料に欠けるものの、平安時代帰属と判断できる住居跡が５軒程度確認できた。住居規模は４ｍ代とほぼ均質であり、カマドはいずれも北西向き、古墳時代と同様、上部施設の遺存状況が著しく悪い。SB17の検出面から漆状の有機物が１点出土したことは特筆にあたいする。SB28では床面に石組み樋状の掘り込みが存在し、確認時には大量の炭が検出された。八幡地区の社宮司遺跡で地下式暖房施設と推定される「オンドル状遺構」が確認されていることから、そのような施設との関連を追跡調査する必要がある。

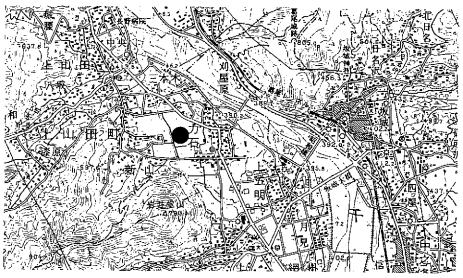
整理作業

整理期間：平成15年４月１日～平成16年３月31日

経過と概要：本年度から本格的な整理作業を開始した。平成12年度から14年度までに調査した八幡遺跡群、外く祢遺跡以南から宮川遺跡までの７遺跡５地籍分を対象として出土遺物及び図面記録類の整理を進めた。出土遺物に関しては、注記及び接合作業、木製品の洗浄と一部実測作業を行った。図面類は、基礎的な整理と２次原図類の作成を行った。合わせて調査報告書の執筆作業を進めた。また社宮司遺跡出土の六角木幢については、記録保存に向けての本格的な始動となり、５人の委嘱委員よりなる検討委員会を発足、本年は実測と仏画の作成を実施した（口絵写真）。

6　力石条里遺跡群（県道長野上田線力石バイパス関連）

所　在　地：千曲市大字上山田字薬師堂ほか
調査担当者：西　香子・西山克己・黒岩　隆
調 査 期 間：平成15年４月７日～12月22日
調 査 面 積：8,948㎡
遺跡の立地：千曲川左岸の沖積地
検 出 遺 構：竪穴住居跡25、掘立柱建物跡４、溝跡65、土坑819、水田跡（畦畔、溝状遺構）

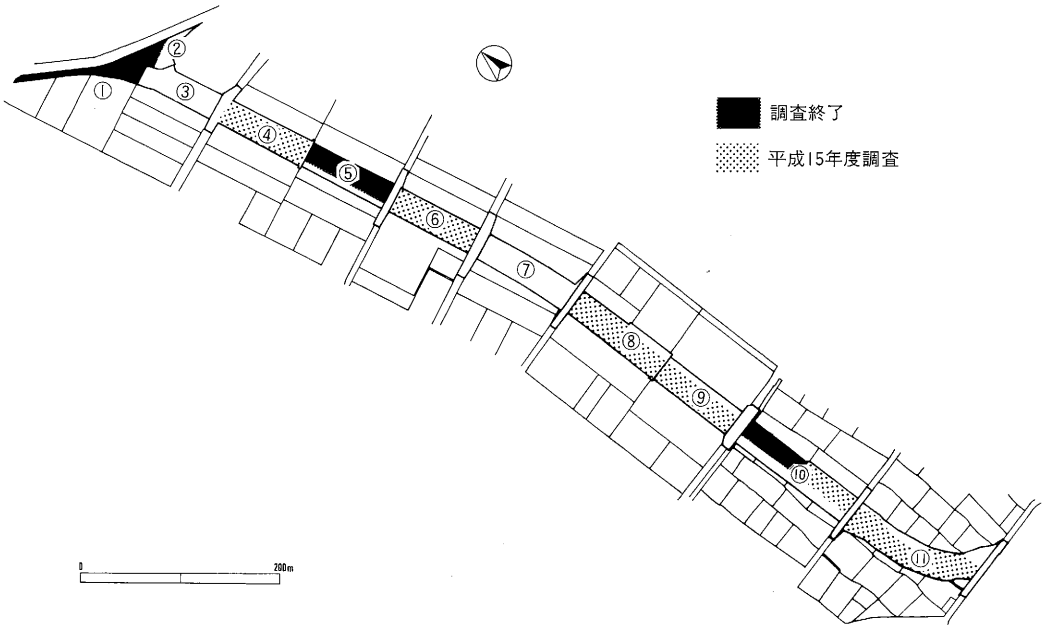


第20図　力石条里遺跡群位置図（1：100,000）

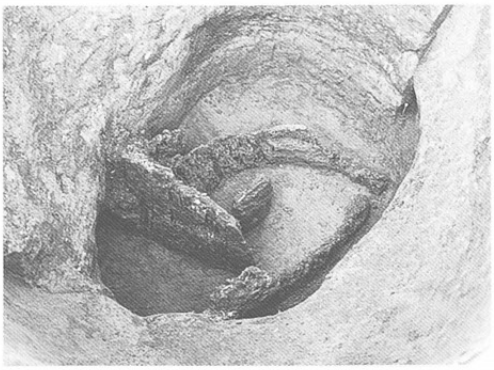
出 土 遺 物：縄文時代晩期の土器、弥生時代前期末～中期初頭の土器・石器・土偶、弥生時代中期後半の土器、弥生時代後期の土器・石器・木製品、古墳時代の土器・石器、古代の土器、中・近世の陶磁器

調査の概要：調査地周辺は、力石条里遺跡群として周知されている。昭和63年度から３年間にわたり、圃場整備工事に係わる緊急発掘調査が、上山田町教育委員会により行われている。その時の調査では、縄文時代後期・晩期の土器片、弥生時代中期～古墳時代の住居跡、中世の井戸跡などが確認されている。また、昨年度から始まった当センターの調査では、あらたに弥生時代前期末～中期初頭の再葬墓も確認された。

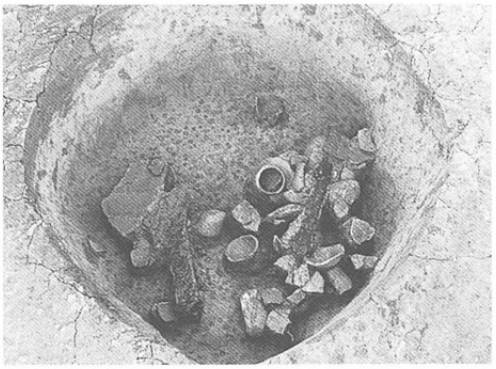
今年度の調査は、前年度から続く⑥・⑧・⑩区の調査に加えて、④・⑨・⑪区の調査も行った。前年度確認された、弥生時代前期末～中期初頭・後期、中近世の遺構に加えて、弥生時代



第21図　調査範囲

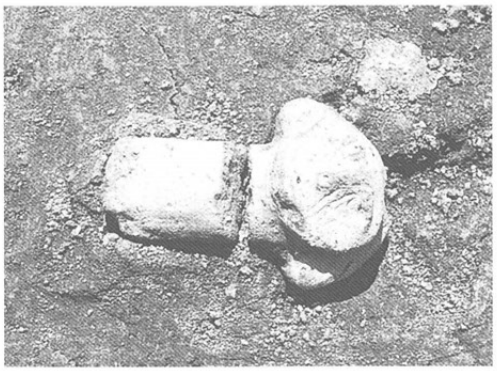


第22図　井戸枠出土状況（SK838）



第23図　井戸の遺物出土状況（SK878）

第24図　竪穴住居の土器出土状況



第25図　黥面土偶出土状況

中期後半や古墳時代の竪穴住居跡、古墳時代の水田跡も確認された。以下、時代ごとに主な遺構の概要を記す。

弥生時代前期末～中期初頭　⑩区で昨年再葬墓を確認した地域の南側を調査し、当概期の土坑を12基確認したが、墓壙と思われる遺構は、確認できなかった。包含層からは、当概期の土器・石器に加えて、黥面土偶が１点出土している。

弥生時代中期後半　当概期の竪穴住居跡が、⑥区で５軒確認された。その他に、当概期の溝跡が、④区で３条⑧区で７条確認された。

弥生時代後期　当概期の竪穴住居跡は、④区２軒、⑥区２軒、⑨区５軒、⑩区で２軒があらたに確認された。⑥区で検出された竪穴住居跡からは、炭化米が出土した。また、SK838とした井戸跡から、木製の井戸枠が出土している。⑨区では、当概期の掘立柱建物跡が１棟確認された。その他に、各地区で複数の溝跡や土坑が確認されている。

古墳時代　当概期の竪穴住居跡は、⑩区１軒、⑪区で２軒確認された。また④区では、当概期のものと思われる洪水砂に覆われた水田跡が確認された。④区の包含層からは、古墳時代の石製模造品が出土している。

中世以降　当概期に属する掘立柱建物跡が、④区で３棟確認された。その他に、④・⑧区で、当概期に属する複数の土坑や井戸が確認されている。

7　天神城跡（県道整備事業関連）

所　在　地：北佐久郡望月町大字協和字天神

調査担当者：河西克造

調 査 期 間：平成15年10月15日～12月11日

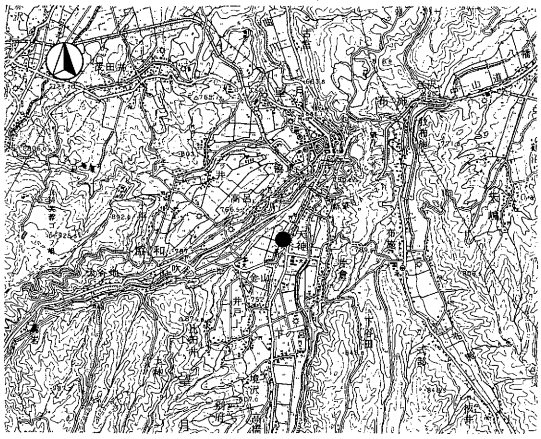
調 査 面 積：6,000㎡（実質面積2,000㎡）

遺跡の立地：鹿曲川と八丁地川によって形成された河岸段丘

遺跡の特徴：中世の城館跡

検 出 遺 構：中世に帰属する遺構なし。近世に遡ると思われる盛土。

出 土 遺 物：内耳土器、天目茶碗、中近世陶磁器、近現代陶磁器、銭貨（寛永通宝）



第26図　天神城跡位置図（1：100,000）

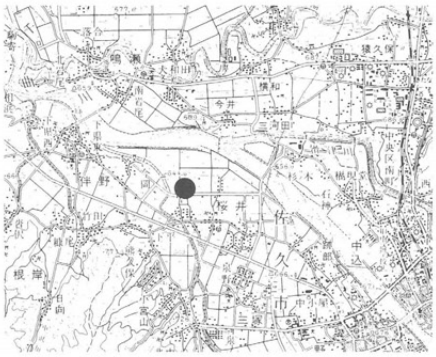
調査の概要：天神城跡は望月町のほぼ中央部に位置し、鹿曲川と八丁地川の浸食で形成された河岸段丘に立地する。地表面観察では段丘上に堀を画して配置する曲輪群が見られる。段丘先端付近に土塁を伴う主郭があり、主郭直下の西斜面に大規模な畝状空堀群が確認される。

県道湯沢望月線（天神バイパス）が建設されることなり、今年度は主郭から約400ｍ南方に離れた東斜面が調査対象となった。ここには小規模な段（平場）が棚田状に見られたが、主郭からの距離と段の形状、昭和30年代頃まで耕作地として利用されていたことから、地表面観察では積極的に城郭施設と判断できなかった。調査の結果、斜面を掘削して大規模な盛土行為で段が形成されていることが判明したが、盛土出土遺物から、水田造成に伴いつくられた段と判断された。ただし、斜面最上段の最下層では近世に遡ると思われる盛土が確認され、出土遺物から盛土段階で中世遺構を破壊した可能性がうかがえた。今回と来年度以降予定されているトンネル坑口の調査結果と合わせて天神城跡の範囲や城郭外縁部の評価をする必要がある。

第27図　調査範囲（1：50,000）

8　北畑遺跡（中部横断自動車道関連）

所　在　地：佐久市大字桜井字北西谷ほか
調 査 期 間：平成15年４月７日～11月28日
調 査 面 積：10,000㎡
調査担当者：寺内隆夫・上田　真・宇賀神誠司・小林秀行
遺跡の立地：千曲川左岸の河岸段丘上
検 出 遺 構：水田跡２（時期不明）　土坑12　溝跡および自然流路８



第28図　北畑遺跡の位置（1：100,000）

調査の概要：佐久平の西方、佐久鯉の養殖池が点在する水の豊富な桜井地籍に北畑遺跡は位置している。本遺跡は、北側を西流する千曲川の沖積地に含まれ、千曲川に向かってわずかに傾斜する低位段丘面上に立地する。調査区は、北端を千曲川の河岸段丘崖に、西側を千曲川に向かって流れる片貝川、東側は百々川に画された段丘縁辺の微高地上にあたる。

遺跡は、開田や近年の圃場整備によって削平されていたが、今回の調査の結果、砂礫の押し出しや流路の移動などを繰り返す中で堆積したと考えられる砂、および礫を基盤とした起伏のある地形が確認された。微高地部と低地部は、片貝川に並行して形成されていることから、後者は旧河道性低地と捉えられよう。微高地部については削平のため遺構は検出されなかった。一方、低地部では、一ヶ所の低地で畦や溝を伴う水田跡（弥生時代以降）が黒色土層上面で検出された。また、その上層の黒褐色土層中でも、シルト質の砂層に覆われた平坦面や溝が認められており、古代以降の水田跡の可能性が考えられる。今後、時期の絞り込みや、プラントオパール・花粉分析等の分析結果を行い、千曲川流域における開発の様相を示す一資料として検討を加えたい。

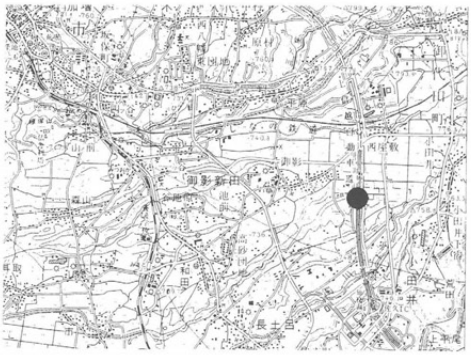
この他、上記の低地部西隣に微高地を挟んで見つかった低地部では、弥生時代と縄文時代の溝・流路が検出された。弥生時代中期の土器がまとまって出土し、縄文時代中期後半の土器片も採集された。さらに、段丘面先端部で検出された南東から北西へに流れた河道跡からは、弥生時代の打製石斧が十数点、比較的まとまった範囲で出土した。

これらの状況から、本調査地区に隣接する南側の旧河道上流部には、弥生時代中期の集落跡が存在していたと推察される。

第29図　調査区全景　中央の黒色土の範囲が水田跡

9　野火附遺跡（中部横断自動車道関連）

所　在　地：小諸市大字御影新田字野火附
調査担当者：寺内隆夫・上田　真・宇賀神誠司
　　小林秀行
調 査 期 間：平成15年７月24日～12月12日
調 査 面 積：10,000㎡
遺跡の立地：浅間山南西麓の台地上
遺跡の特徴：古墳時代後期～終末期の集落跡
検 出 遺 構：竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡７棟、
　　溝１条、土坑60基



第30図　野火附遺跡（1：100,000）

調査の概要：本遺跡は、平成５年度の上信越自動車道建設に伴って確認・調査されているが、同道と中部横断自動車道とのジャンクションが建設されることになり、昨年度はその工事用道路部分が調査されている。今年度はその南側部分（西区）と上信越自動車道を挟んだ東側部分（東区）が調査された。

西区で検出された遺構は、昨年度調査分を合わせて竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡２棟、性格不明の円形周溝遺構１基、土坑10基などであるが、調査面積の割に遺構数が少なく、特に北西部にはほとんど遺構が見られなかった。これに西接する野火附城跡の調査では同時代の遺構の検出はなく、本地区が野火附の古墳時代集落跡の西限であると思われる。

東区で検出された遺構は、竪穴住居跡８軒、掘立柱建物跡５棟、溝１条、土坑約50基などであるが、土坑は狭い区域に集中しており、今後の検討によって掘立柱建物１～２棟に組める可能性がある。本地区も、遺構は北半分が皆無で南半分に偏っており、集落の北限に当たると思われる。西区や上信越自動車道地区と比べた遺構密度の高さや、竪穴住居跡数に対する掘立柱建物数の多さ、拡張された一辺約７ｍの竪穴住居跡や、梁間約５ｍ×桁行７ｍを越える掘立柱建物跡の存在、なかでも桁行約10ｍで柱穴の掘方が方形または長方形で一部に布掘りのある掘立柱建物跡は、本地区がこの集落の中心的部分であることを示している。

また、本地区の南東部では、方向・規模・出土遺物などから上信越自動車道地区で検出された１号溝跡に繋がると見られる溝が検出されたが、竪穴住居跡との切り合いと上層の出土遺物から、上限・下限とも集落の存続期間内である７世紀代であることが分かり、人工のものであることがほぼ確実となった。

野火附古墳確認のため、西区から南側市道を隔てた台地南端部も調査したが、削平が著しく集落の続きも野火附古墳の跡も検出できなかった。

第31図　野火附遺跡全景

10　離山遺跡（県道整備事業関連・整理作業）

担　当　者：桜井秀雄

経過と今年度の作業：離山遺跡は南佐久郡臼田町上中込に所在する。平成14年度に発掘調査を行い、同年度の冬期基礎整理作業を経て、今年度に本格的な整理作業及び報告書刊行業務を実施した。

今年度の成果：東西幅約５ｍ、南北長約60ｍ余という狭い調査範囲ではあったが、多大な成果を上げることができた。以下、今回の調査で判明した知見の概要をまとめてみたい。

千曲川右岸の沖積地に位置する本遺跡では、土層の堆積が北側部分（北区）と南側部分（南区）では大きく異なり、南区が１面の調査面で終了したのに対し、北区では調査面は５面にわたった。同一の遺跡であると考えられる隣接する佐久市久禰添遺跡でも１面の調査であったことからも、北区での土層堆積は千曲川の氾濫を含め、当地の地形形成を知る上でも見逃せない視点ともなろう。次に遺物について触れておく。第３調査面からは洪水砂層に覆われた水田跡が検出されたが、これは遺物の検討により、９世紀第４四半期をもって砂層にパックされたものと考えるに至った。とすれば仁和３年（888年）に起きた「仁和の洪水」との関連性が想起されるが、その可能性は十分高いものと報告書では指摘した。また、第５調査面から出土した遺物は５世紀中葉～６世紀前半頃の古墳時代のものが主体を占めるが、他にも縄文時代・弥生時代中期後半・後期のものも認められている。これらの遺物は砂礫に混じっての出土であるため、６世紀前半頃に洪水等により押し出されたものと理解するのが最も妥当であると思われる。本遺跡及び久禰添遺跡の近隣では発掘調査の事例が比較的少ないため、今回の調査成果は貴重な資料になるものと期待する次第である。

11　矢出川遺跡群（畑地帯総合整備事業関連・整理作業）

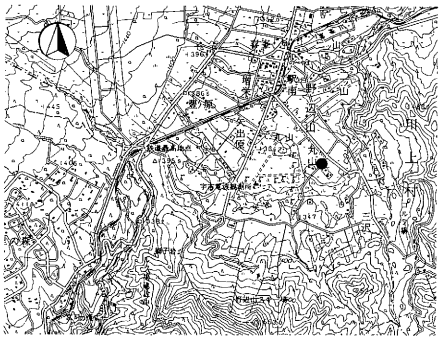
所　在　地：南佐久郡南牧村大字野辺山字二ツ山

調査担当者：川崎　保

調 査 期 間：平成15年12月10日、16日、18日
　　平成16年1月21日（工事立会）

遺跡の立地：八ヶ岳山麓野辺山原扇状地の東南端

調 査 概 要：昨年度調査範囲の西南側の道路拡幅工事施工部分で工事立会を行った。チャートの原石が１点出土したが、プライマリーな層から出土したかはわからない。ローム層自体がかなり削平されており、遺構や遺物包含層は存在していないと思われる。

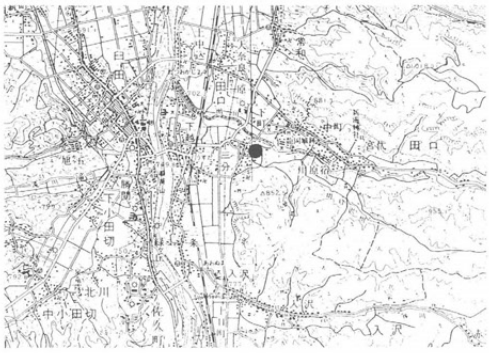


第32図　矢出川遺跡群（1：100,000）

整 理 作 業：工事立会と並行して本年度の報告書刊行に向けて、平成11年度から本年度までの調査（試掘、工事立会を含む）に関する成果について整理作業（撮影写真整理、遺物注記、撮影、原図や所見の見直し、本報告書の執筆および同書の図版などの作成、編集など）を行った。

12　三分遺跡（県道田口バイパス建設事業関連）

所　在　地：南佐久郡臼田町三分636-2番地ほか
調査担当者：桜井秀雄　中野亮一　河西克造
調 査 期 間：平成15年４月７日～９月30日
調 査 面 積：8,000㎡
遺跡の立地：雨川左岸の扇状地
検 出 遺 構：古墳１基、土坑43基、溝11条ほか
出 土 遺 物：古墳時代の土師器、須恵器
　　縄文時代石器、近世陶磁器

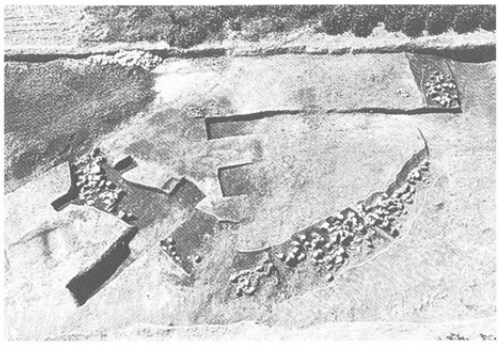


第33図　三分遺跡（1：100,000）

調査の概要：本遺跡の調査対象面積は、長さ約540ｍ、幅約15ｍ程をはかり、東西に細長いため、南北に横切る現道を境として①区～③区に便宜的に分けて調査を進めた。また調査開始直後に、調査対象面積境に流れる田口用水の東側にも遺跡が伸びている可能性が出てきたため、田口用水の東側部分もトレンチ調査を経て、④区として調査範囲に加えることにした。

④区からは土坑９基が検出されたが、遺物の出土はみられなかった。①区では土坑12基、溝６基、焼土跡２基が検出された。溝SD01から縄文時代の石器（打製石斧等）が出土した他には遺構からの出土遺物は認められなかった。②区では土坑17基と溝５基が検出された。ここでも遺物を出土する遺構は少なく、縄文時代の石器を伴った１基と近世陶磁器片を伴った１基を数えるのみであった。また②区は「谷地」という小字名が示す通り、湧水が激しい個所がみられ、トレンチ調査で終了した部分もある。

①区・②区・④区での調査面は１面であったが、③区の一部では他にみられない黒褐色土の堆積がみられ、この層から煙滅古墳の周溝が検出され、調査面は２面を数えることとなった。臼田町教育委員会で実施した詳細分布調査でも古墳の存在は確認されておらず、未周知の古墳の検出となった。現況は畑地であり、すでに主体部は存在していなかったが、黒褐色土を掘り込む周溝が確認でき、周溝内からは土師器・須恵器片が、崩落した外護列石とともに出土している。出土土器からすれば７世紀後半頃に位置づけられる古墳と考えられる。周溝は径十数ｍ程度をはかるものと推定できようか。地元の方の何人かに話をお聞きしたところではこの地に古墳が存在したとの伝承等はなかったようであるが、本古墳の所在する地点の小字名は「塚畑」であり、地名は古墳の存在を示していたことになる。地名の重要性を強く認識した次第である。雨川右岸には幸神古墳群、新海神社古墳群など多くの古墳がみられるのに対し、雨川左岸の三分地籍では初の古墳の発見ということになる。


第34図　古墳周溝（上が南）

13　唐松Ｂ遺跡（県道整備事業関連）

所　在　地：南佐久郡臼田町大字平林字唐松985番地ほか

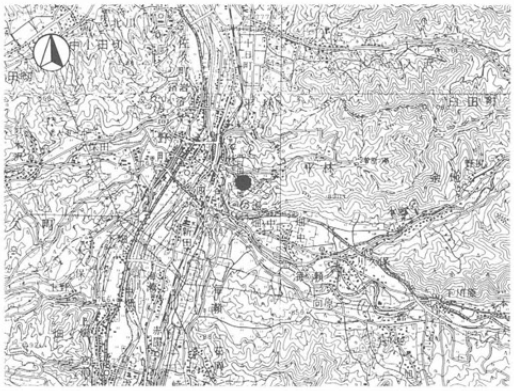
調査担当者：河西克造　中野亮一

調 査 期 間：平成15年５月６日～10月16日

調 査 面 積：5,000㎡

遺跡の立地：曽原川と抜井川によって形成された段丘上

検 出 遺 構：竪穴住居跡６軒（縄文時代中期４、平安時代前半２）、掘立柱建物跡１棟、陥し穴12基、土坑26基（縄文時代25、弥生時代中期１）



第35図　唐松Ｂ遺跡位置図（1：100,000）

出 土 遺 物：縄文中期土器、弥生時代中期土器、平安時代の土師器・須恵器、内耳土器
石刃、石核、石鏃、打製石斧

調査の概要：唐松Ｂ遺跡は千曲川右岸の段丘上に立地する。段丘を南北に縦断する形で県道川上佐久線が建設されることとなり、今回発掘調査が実施された。

調査の結果、調査区全域で遺構の分布が見られ、縄文時代中期、弥生時代中期、平安時代前半の３時期の遺構・遺物が確認された。縄文時代は、段丘頂部を中心に竪穴住居跡が一定間隔で半円形にめぐり、その内側に貯蔵穴と思われる土坑が集中する中期後半の集落跡が確認された。遺構分布と地形から、調査区西側の段丘先端付近に集落の中心があると考えられる。さらに、集落形成以前と思われる陥し穴は調査区を横断・縦断など複数の配列が見られ、調査区を中心として広範囲に狩猟域が展開していると思われる。他時期では、弥生時代中期前半の壺が逆位で出土した土坑と調査区南端の南緩斜面で同一軸で切り合う平安時代の竪穴住居跡がある。

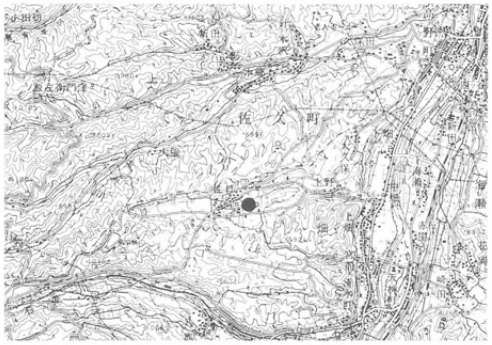
今回の調査では、小規模ながら複数の時期にわたって段丘上が利用されていたことが判明し、さらに当地域における縄文中期後半の集落構造が解明できるなど、興味深い資料を得られた。

第36図　調査区全景（羽黒山方向より）

第37図　縄文時代中期の竪穴住居跡（SB06）

14　馬込遺跡（広域営農団地農道佐久南部地区整備事業関連）

所　在　地：南佐久郡八千穂村大字畑4611-1ほか
調査担当者：桜井秀雄・中野亮一
調 査 期 間：平成15年９月１日～12月25日
調 査 面 積：10,000㎡
遺跡の立地：千曲川左岸、八ヶ岳山麓裾の尾根状に残る地形の頂部
検 出 遺 構：土坑62基　竪穴状遺構１基　焼土跡１基
出 土 遺 物：縄文土器・石器、中近世土器



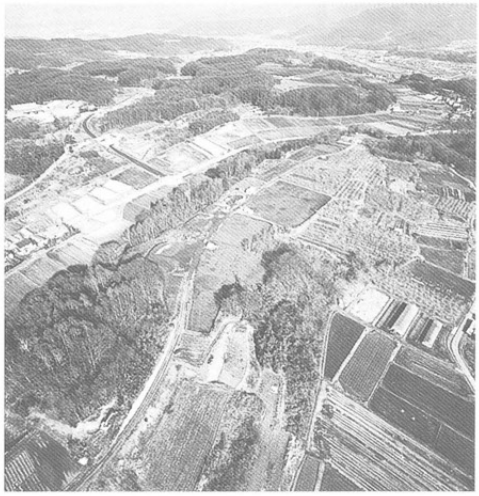
第38図　馬込遺跡の位置（1：100,000）

調査の概要：昨年度に引き続いての調査であり、今年度は尾根の南側斜面が調査対象となった。昨年度と同様に土坑を中心とした遺跡といえる。表土が平均約20cm程と浅く、また調査対象地の現況がりんごを主とする畑地であり、そのためもあり、攪乱が著しかった。

検出された土坑は62基を数え、昨年度調査分42基をあわせると、104基ということになる。土坑から出土する遺物は認められなかったため、土坑の所産時期の想定は難しいが、数基の土坑ではその形態から陥し穴の可能性をもつものも存在しており、土坑の性格を考える上で重要な知見を提供するものと期待できよう。

遺構外から出土した遺物としては、縄文時代と中近世のものが認められている。縄文時代のものでは、石鏃・打製石斧・剥片等の石器と縄文後期頃とみられる土器片等が、そして中世のものとしては、内耳鍋片が少なからずの量で、それぞれ出土している。なお中世遺物では、かつて石臼が表面採集されていることにも注目しておきたい。また土坑以外の遺構としては、遺物は伴わなかったものの竪穴状遺構が１基検出されたが、これは中世の所産である可能性が高いのではないかと現段階では考えている。なお、村教委の表面採集では、縄文時代・中近世の他に平安時代の土器片も認められている。

縄文時代においては竪穴住居跡が検出されなかったことや遺物量が比較的少なく散布していることからすれば、調査範囲内は集落域であったとは考えにくく、土坑の中には陥し穴の可能性の高いものが数基みられることも踏まえれば、狩猟・採集の場であったと考えるのが自然であろうが、陥し穴以外の土坑の性格づけの問題も残っており、この点の分析は今後の検討課題としておきたい。また中世についても竪穴状遺構の検討を中心として解明すべき課題は多いといえよう。


第39図　馬込遺跡全景（西から）

15　肩平（かただいら）・菅ノ沢（すげのさわ）遺跡ほか（国営アルプスあづみの公園関連）

調査担当者：贄田　明

調 査 期 間：平成15年５月27日～10月31日

発掘調査（肩平遺跡・菅ノ沢遺跡）

1　肩平遺跡

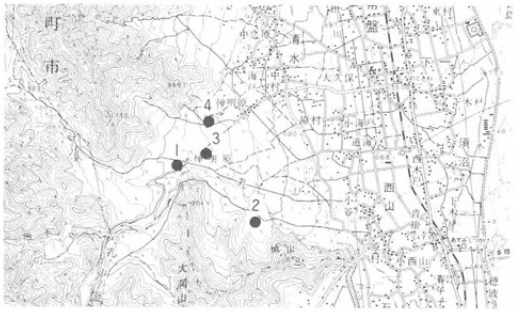
所　在　地：大町市常盤7917-1ほか

調 査 面 積：5,600㎡

遺跡の立地：乳川扇状地の扇頂

検 出 遺 構：縄文時代早期前半もしくは中期後半の土坑15基・集石遺構１基、中世の掘立柱建物跡２棟・土坑64基・焼土跡４基、時期不明の溝跡２条

出 土 遺 物：縄文時代早～中期の土器・石器、中世のかわらけ・青磁・白磁・擂鉢・捏鉢・刀子状鉄製品・銭貨



第40図　遺跡の位置（1：100,000）

調査の概要：肩平遺跡は遺跡の北側を走る林道下に埋没した沢状の地形と、南側を流れる乳川にはさまれた、細長い東向きの緩やかな斜面に立地する。既存の情報では縄文時代中期の遺跡とされてきたが、発掘調査によって新たに中世の遺跡でもあることが判明した。

検出された遺構は、時代ごとに分布範囲が異なる。縄文時代の遺構は調査区の南東部のみに分布し、更に南側の調査区外へと広がることが推測される。遺構の主体となる土坑は、陥し穴と思われるもののほかに、円形を呈し長さ・幅がともに２ｍを超え、深さが1.5ｍに達する大形のものなどが見られた（第41図）。

第41図　縄文時代中期後半の土坑（SK13）

一方、中世の遺構は調査区の西側のみに分布する。柱穴並みの小土坑が多い中で、掘立柱建物跡として認定できたのは２間×１間と５間×４間以上の２棟のみであった。この内、５間×４間以上の建物跡は総柱建物であり、敷地内に焼土跡が付随していた（第42図）。

第42図　中世の掘立柱建物跡（ST1）

肩平遺跡の近郊にはかつて寺院が存在

したとも言われており、里山の奥にあるこうした遺跡の性格が注目されよう。なお、中世の時期は検出時に出土した遺物から判断して、13世紀後半～14世紀前半と考えられる。

2　菅ノ沢遺跡

所　在　地：大町市常盤8003-1ほか

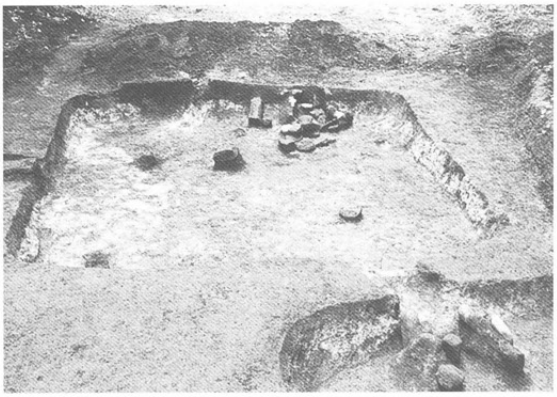
調 査 面 積：1200㎡

遺跡の立地：乳川扇状地の扇央

検 出 遺 構：古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡3軒・土坑20基

出 土 遺 物：弥生時代後期の土器、古墳時代後期の土器、平安時代の土器・製鉄関連遺物（炉壁・羽口・鉄滓など）

第43図　沢状地形の斜面（SX1）



第44図　平安時代の竪穴住居跡（SB4）

調査の概要：菅ノ沢遺跡は乳川右岸で、松川村境にほど近い西山城跡の北側裾部に位置する。今年度は平成11年に調査された範囲の東側について発掘調査を実施した。注目されるのは、調査区を南北方向に縦断する沢状地形（SX1）で、その斜面から製鉄の製錬工程に関係すると思われる遺物が多数出土した（第43図）。調査区内ではそうした遺構は検出されていないので、近隣に製錬炉などの遺構が存在するものと思われる。製鉄関係遺物の時期は、判断する根拠が乏しいものの、わずかに共伴した土器の年代からすれば10世紀以降となる。竪穴住居跡の時期と一致し（第44図）、本遺跡で検出された平安時代の集落が、鉄生産に携わる集落であったことが考えられる。

試掘調査（山の神遺跡・寺海戸遺跡）

3　山の神遺跡

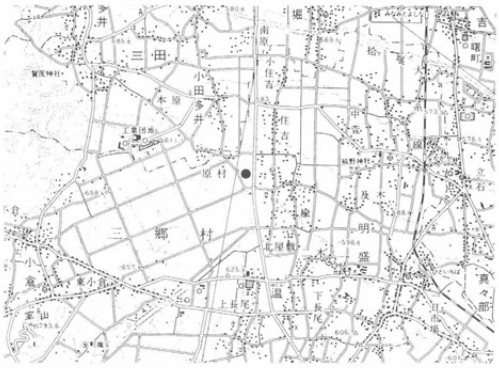
試掘調査の対象となった場所は、平成9～12年度に調査された地点の北西約800ｍに位置する。面積は600㎡で遺跡の広がりが考慮されたが、トレンチ調査を実施した結果、遺構・遺物は検出されなかった。従って、この場所は山の神遺跡の主体からは外れると考えられる。

4　寺海戸遺跡

以前に採集された土器から、縄文時代中期の遺跡と推測されてきたが、面積1500㎡についてトレンチによる確認調査を実施したところ、遺構・遺物は検出されなかった。このため、寺海戸遺跡の主体はほかの地点にあると考えられる。

16　三角原遺跡（あづみ野排水路関連）

所　在　地：南安曇郡三郷村温6702-2ほか
調査担当者：廣田和穂・川崎　保
調 査 面 積：8,700㎡
調 査 期 間：平成15年５月６日～10月31日
遺跡の立地：黒沢川扇状地の扇端部
検 出 遺 構：竪穴住居跡57軒、土坑130基
出 土 遺 物：縄文時代土器・石器、平安時代土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・鉄器・鉄滓・銭貨



第45図　三角原遺跡の位置（1：100,000）

調 査 概 要：三角原遺跡は、三郷村の西方にある黒沢山・扇平等の山々に端を発する黒沢川により形成された扇状地の扇端部、海抜は600～604ｍに位置する。一帯は近年まで黒沢川の氾濫で何度か洪水にさらされた場所であり、調査区の南端は礫が多く、遺構はほとんど存在しない。一方北端は黒沢川の旧河道と推測される流路が発見され、生活域はこの旧河道により制約を受けていた可能性がある。

調査の結果、平安時代（９世紀中葉～11世紀代）頃を中心とする集落であることが判明した。

竪穴住居跡については、平面形は方形が中心となり、規模は４～６ｍ程が主体を占め、突出した大きさの住居跡は確認できない。床面には柱穴がほとんど確認されず、壁の一部にベッド状の段がつく例がある。

土坑については、墓を５基検出している。覆土中からは土師器や黒色土器の椀・皿が数点ずつセットで出土しているが、灰釉陶器や緑釉陶器はない。このほか炭焼き窯の可能性がある土坑３基を検出している。本遺跡では羽口片や鉄滓が一定量出土しており、炭焼き窯の存在とあわせ、近隣に鍛冶関連施設が存在した可能性もある。

第46図　三角原遺跡遠景

出土遺物では平安時代土器が一番多いものの、特に灰釉陶器の耳皿・小瓶・壺類については量的に少ない印象がある。また緑釉陶器は破片で少量出土、輸入陶磁器も現状では確認できない。このほか鎌・刀子・苧引鉄などの鉄製品や砥石、皇朝十二銭の「延喜通宝」も出土した。縄文時代については晩期の土坑１基を検出。調査区外に遺構が分布する可能性がある。また遺構外からは打製石斧も出土している。

整 理 作 業：発掘調査終了後に、遺物の注記、図面、写真等の分類・照合、および各種台帳の整備など、基礎整理作業を行った。

17　中村・外垣外遺跡（一般国道〔坂室バイパス〕改良工事事業関連）

所　在　地：茅野市大字宮川西茅野

調査期間：平成15年６月４日から10月３日

調査面積：4,200㎡

調査担当者：藤原直人

遺跡の立地：宮川左岸の扇状地先端部の微高地とそれに続く沖積低地

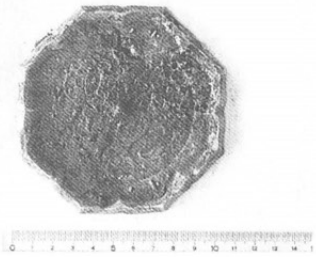
遺跡の特徴：縄文中期・晩期の遺物集中、弥生時代後期の集落、平安時代から中世の集落跡・墓域・中世の区画溝

第47図　中村・外垣外遺跡の位置
（1：100,000）

検出遺構：竪穴住居跡（弥生後期）１軒、掘立柱建物跡７棟、溝跡２条、土坑130基、土坑墓２基

出土遺物：縄文時代前期・中期･晩期の土器・石器、弥生時代後期の土器・石器、平安時代後半～中世の八稜鏡・鉄鐸・鉄製品・宋銭・陶磁器・土器など。

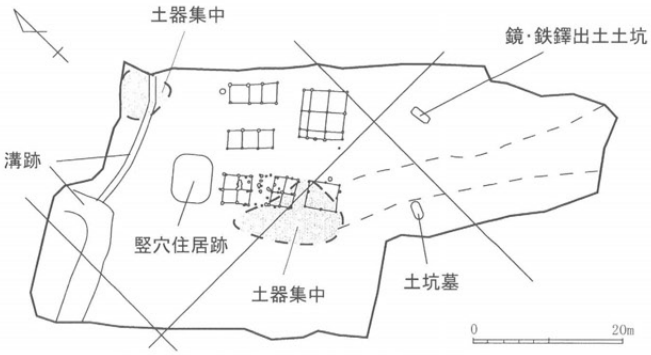
調査の概要：調査区内の沖積低地には東西に走る溝状の窪地があり、その埋土下層からは縄文時代前期末・中期中葉の土器片が散在して出土し、その上部の層からは縄文時代晩期の土器片が集中して多数出土している。これらの土器片は遺構を伴わず低地部に多く確認できることから、本遺跡の東側に存在する遺跡からの流れ込みが考えられる。また、本遺跡は茅野市内の縄文時代晩期の遺跡は数少ないが、代表的な遺跡として近接する御社宮司遺跡があげられる。



第48図　出土した八稜鏡

平安時代後期から中世と想定される土坑墓２基の内の１基からは２面の鏡と３個の鉄鐸・棒状の鉄製品が２点、埋葬時に鏡を納めるために使用したと思われる繊維質の有機物が鏡に密着して出土している。土器が検出されなかったため時期の特定は今のところ難しい。その規模と形は、長さが約188cm、幅が約63cm、深さ約38cmの長方形で長軸はほぼ南北を向いている。その土坑から出土した２面の鏡は瑞花双鳳八稜鏡で、鉄鐸との共伴はめずらしい。諏訪信仰との関わりを濃密に示すものと考えられ貴重である。

また、調査区の微高地状の地区からは平面が「L」字状の当時の区画を想定させるような中世の溝が確認されている。



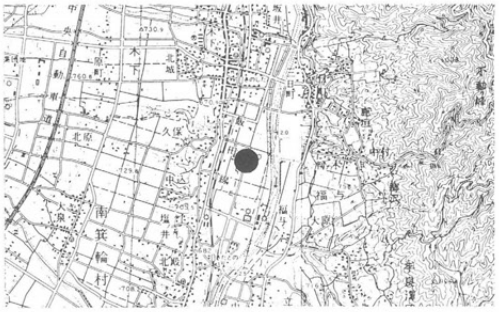
第49図　中村・外垣外遺跡遺構配置図

18　箕輪遺跡（伊那バイパス関連）

箕輪遺跡は箕輪町～南箕輪村の天竜川西岸に広がる水田遺跡として知られている。この遺跡を縦断する松島・伊那バイパス建設に伴い平成12年度から断続的に調査を進め、本年度は伊那バイパス用地内の一部の発掘調査と整理作業を行った。

平成15年度調査

所　在　地：上伊那郡箕輪町三日町
調 査 期 間：平成15年４月３日～同５月１日
調 査 担 当：市川隆之・桜井秀雄
調 査 面 積：1300㎡
主な検出遺構：掘立柱建物跡３棟（前年度連続２棟）、竪穴住居跡７軒（前年度の連続４軒）、水田面２面
主な検出遺物：弥生・古墳時代土器、石器



第50図　箕輪遺跡の位置（1：100,000）

本年度は集落域から河道跡低地水田域にかかる部分の現道下を対象とした。東端は埋設用水で破壊されていたものの、平成12年度調査域から続く遺構や、新たな住居跡３軒、掘立柱建物跡が検出された。

整 理 作 業　平成14年度からの継続であり、本年調査の整理と土器・木製品の実測・トレース・図版組、遺構のトレース・図版組を進めた。

これまでの箕輪遺跡の調査から、旧地形は河道跡低地と三角州状高まりが組み合う複雑な地形環境で、低い河道跡低地が埋積して比高差が減少していく地形変化が推測される。この変化のなかで古い水田跡は河道跡低地に構築され、泥炭層を挟み込むように耕作・放棄を繰り返しながら、低地埋積で比高差が次第に減少するなかで水田域は拡大したようだ。箕輪遺跡でよく知られる杭列の多くはかなり時代の下った広域水田時に伴う可能性が窺えている。

また、河道跡に挟まれた狭い微高地では弥生中期・後期、古墳時代後期の３時期の集落跡が確認されている。弥生中期は栗林系土器が主体で信濃北部の影響を受けていたが、後期は伊那谷南部と同様の土器群となり、あわせて囲溝跡が現れ南部の影響を受けるように変化した様相が窺える。

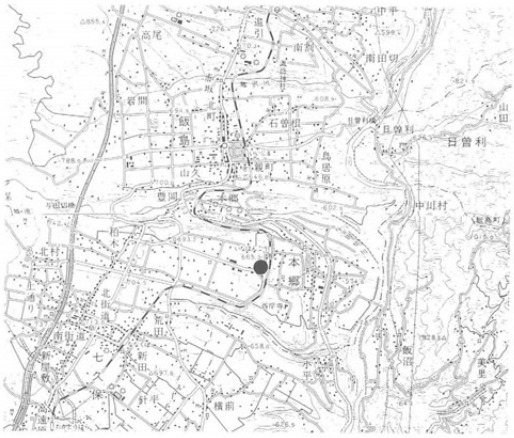
古墳後期遺構は微高地中央付近に掘立柱建物跡が集中し、その北側に竪穴住居跡が散在する分布状況を示す。水田耕作に立脚した立地とも思われるが、存続時期は短い。

これらの調査成果の詳細は次年度刊行予定の報告書を参照していただきたい。

第51図　河川跡低地内の水田跡

19　原林遺跡（県単農免農道事業関連）

所　在　地：上伊那郡飯島町本郷
調 査 期 間：平成15年10月29日から12月12日
調 査 面 積：700㎡
調査担当者：藤原直人
遺跡の立地：中央アルプスが形成した扇状地端部の舌状台地上で、天竜川の河岸段丘、あるいは断層崖上
遺跡の特徴：縄文時代中期後半の遺跡。東に隣接する丸山遺跡とは、同一の集落であった可能性が高いと考えられる。



第52図　原林遺跡の位置（1：100,000）

検 出 遺 構：竪穴住居跡１軒
出 土 遺 物：縄文時代中期後半の土器、石器（打製石斧・磨製石斧・横刃型石器・石皿など）
調査の概要：原林遺跡の調査面積は700㎡と狭く、遺構の検出は1軒に留まった。確認された遺構は縄文時代中期後葉の竪穴住居跡で、調査区北側の旧地形の残存していた箇所に位置し、住居跡のおよそ３分の１が検出された。住居跡の南側は削平を受け消失、北側の一部は調査区外におよび残存状況は極めて悪い。埋甕は２つの深鉢が入れ子の状態で検出され、また、他にも埋甕と考えられる土器が床面をやや掘り込んだ状態で観察されたが床面の削平が著しく、それら埋甕の新旧・同時期存在の判別はできていない。

北側の隣接地では1980年に飯島町教育委員会によって発掘調査され、縄文時代中期の竪穴住居跡が７軒調査されている（飯島町教育委員会「本郷原林遺跡」1981年報告）。今回の調査区は埋め立て造成の行われた土地であったため、遺構確認面は地表から約１～３ｍと深く、旧地形を著しく盛土したため台地状の丘陵でとなっていた。客土中からは多量の土器片・石器が出土たしほか、焼土や炉石に使用したと思われる被熱した大・中形礫などが見られることから、北側のほ場整備時に未調査の遺跡が削平されたことがうかがわれる。原林遺跡の東側は2002年に調査を実施した丸山遺跡（県埋文センター2003年報告）と隣接するが、本郷原林遺跡も含めて本遺跡と同一集落の可能性が高い。

なお、本遺跡の本格的な整理作業は今年度をもって終了する予定である。

第53図　作業風景（後方に中央アルプス）

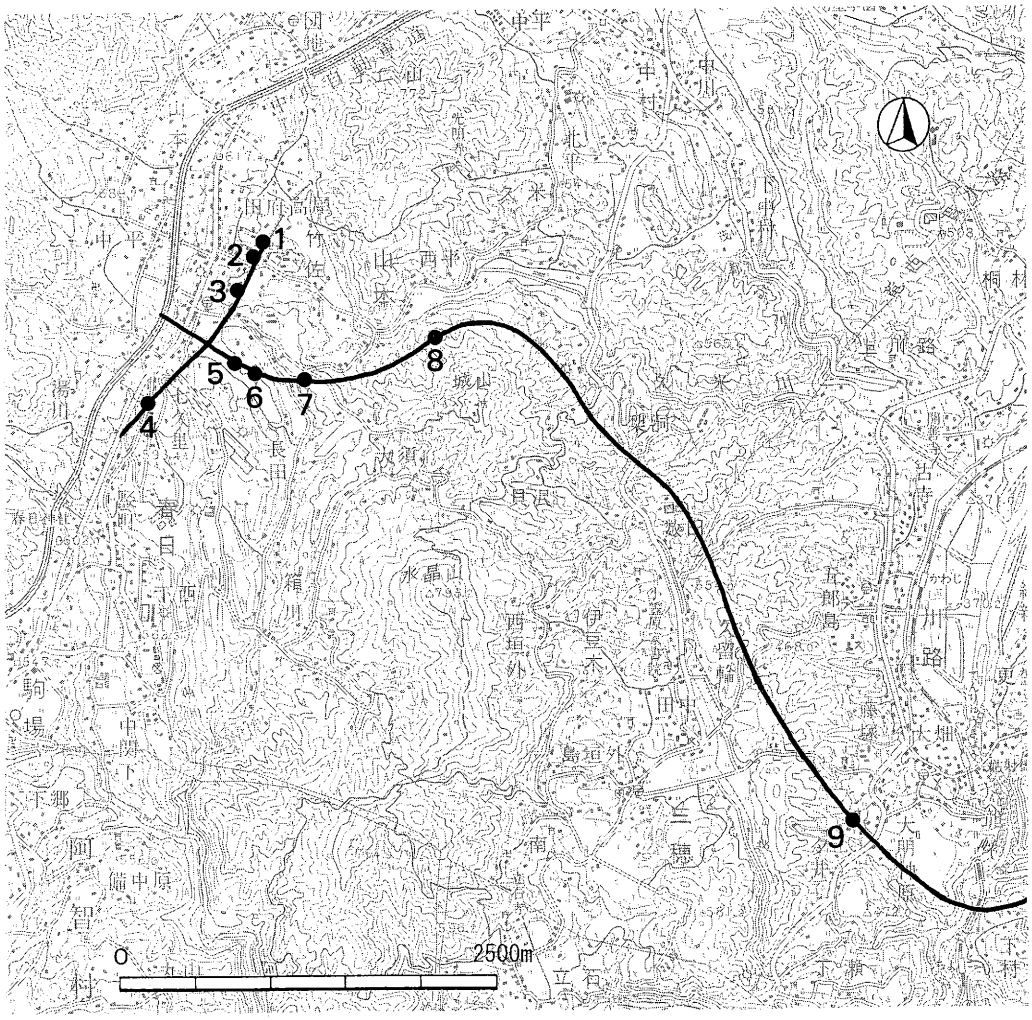
20　竹佐中原遺跡ほか（一般国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)関連）

調査担当者：大竹憲昭・若林　卓・石上周蔵・藤原直人

平成11年度から着手した三遠南信自動車道（飯田南ジャンクション～天竜峡インター間）建設事業に関わる発掘調査も今年度で５年目をむかえた。本年度は山本地区８遺跡（第54図１～８）および川路地区１遺跡（第54図９）の計９遺跡を対象として発掘調査を行った。以下、９遺跡の調査概要を記す。

竹佐中原遺跡　飯田市竹佐151-2ほか　調査期間：５月12日～10月23日　調査面積：12,500㎡

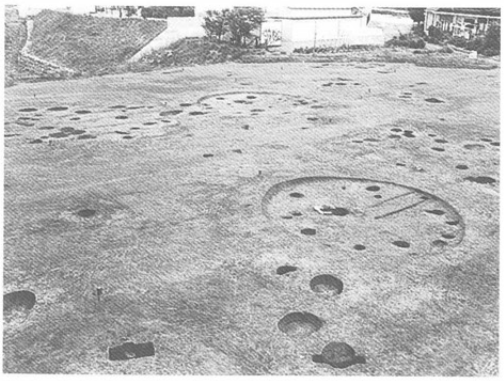
今年度の調査範囲は、土地の削平や耕作などにより遺物包含層の多くが失われていると考えられる。縄文時代中期の竪穴住居跡が遺跡北側の平坦地端部で１軒確認されたが、やはり遺存



第54図　調査遺跡の位置（1：50,000）

1．白山遺跡　2．山本大塚遺跡　3．寺沢遺跡　4．赤羽原遺跡　5．竹佐中原遺跡
6．森林遺跡　7．下り松遺跡　8．久米ヶ城跡　9．川路大明神原遺跡

第55図　竹佐中原遺跡　石器出土状況



第56図　下り松遺跡　縄文時代中期遺構群

状態はあまりよくなかった。旧石器時代の遺物については、昨年度までの調査で、本遺跡には少なくとも２時期の石器群が残されていると考えられる。一つは、斧形石器をもつ後期旧石器初頭以降のＢ地点ほかの石器群。もう一つは、それに時期的に先行すると思われるＡ地点の石器群である（長野県埋蔵文化財センター年報19）。本年度の調査では、石器集中部は確認されず、単発的な出土であった。ただ遺物の中には、一昨年度集中部が確認されたＡ地点と同種の石材がみられた（第55図）。Ａ地点とは200ｍも離れており、台地上の広範囲にＡ地点類似の石器群が展開していたと考えられ注目される。上記のふたつの石器群が、遺跡全体、さらに隣接する森林遺跡まで、現状断片的ではあるものの広域に展開するものと考えられる。台地上の微地形と石器の残される立地等を検討する上で好資料である。

森林遺跡　飯田市竹佐241-12ほか　調査期間：４月８日～５月23日　調査面積：4,300㎡

森林遺跡は昨年度の調査で、弥生時代の竪穴住居跡２軒、縄文時代中期と考えられる小竪穴２基、ナイフ形石器等の旧石器を検出した複合遺跡であることが判明した。昨年度は調査時期が冬季にかかったため、縄文・弥生時代遺構検出面の精査につとめ、一部旧石器面も確認調査をして、調査中断とし、本年度に繰り越した。本年はまず、昨年度未買収地や道路敷部分の調査を行った。新たな遺構は確認されなかった。次に、旧石器時代の調査も調査対象範囲全面に対し行ったが、遺物が散発的に出土した程度にとどまった。竹佐中原遺跡Ａ地点と同類の石器も検出されたが、すべて攪乱層からの出土であった。

下り松遺跡　飯田市竹佐413ほか　調査期間：４月３日～６月13日　調査面積：4,500㎡

遺跡は竹佐中原遺跡がある丘陵の谷ひとつ隔てた東側の丘陵上に位置する。平成13年度に対象範囲の中央部から東部の調査を行い、縄文早期末～前期と中期の遺物が出土したものの、明確な遺構は確認されなかった。本年度は西部と東端部で調査を実施し、縄文時代中期の集落跡が明らかになった。遺構は、西部で住居跡4軒（１軒は柱穴のみ）・土坑74基、東端部で住居跡２軒を検出した。住居跡は直径５ｍ前後の円形ないし楕円気味の平面形を呈する。石囲炉をもち、不明確な１軒を除き５本主柱である。１軒のみ埋甕を伴う。出土遺物からすると、住居群の帰属時期は縄文中期中葉末～後葉と考えられる。土坑は円形を呈し、直径80㎝前後のものが主体をなす。広く散在的に分布するのではなく、住居近隣の数箇所にまとまる傾向をみせる。

遺物を伴わない土坑が多いものの、ほとんどは住居群と同時期と推測している。

山本大塚遺跡　飯田市山本699ほか　調査期間：８月５日～９月17日　調査面積：4,400㎡

遺跡は東南に延びる丘陵上に位置しており、丘陵の先端近くを南北に横断する形で調査を行った。調査部分の微地形は、三筋の尾根状微高地部が南北に並列し、その間は浅い谷状低地部となっている。北側の微高地では土坑３基が検出された。南側の微高地では、縄文時代の円形土坑1基と、近世の土坑墓２基（SK3・4）を検出した。土坑墓は長方形を呈し、主軸を南北に揃えて並ぶ。SK3から重なって錆着した銅銭６枚が出土し、SK4には同じく６枚重ねの銅銭と煙管・砥石・硯および鉄製品が納められていた。低地部については、北微高地と中央微高地間で近世～近代の溝４条を検出したほか、縄文土器・石器、中世以降の土器・陶磁器が出土した。これまでの発掘調査で、縄文・古墳・中世・近世の四時期の内容を含む遺跡であることが明らかになったが、明確な集落域は確認されていない。今回検出の近世土坑墓は、隣接する観音寺や昭和44年に調査された中世火葬墓群とともに、遺跡の特質を考える上で注意をひく。

白山遺跡　飯田市竹佐881ほか　調査期間：７月４日　調査面積：40㎡

丘陵北側の斜面部を調査した。遺跡範囲の西端部にあたる。表土下に黒色土層が認められたが遺物の包含はなく、直下に砂礫層があらわれた。遺構も検出されなかった。

寺沢遺跡　飯田市竹佐563ほか　調査期間：７月１日～４日　調査面積：260㎡

調査部分の南半は尾根状微高地の末端部だが、宅地造成により大きく削平され、遺物包含層は存在しなかった。北半部は谷状低地部となり、やはり遺構･遺物は確認されなかった。

赤羽原遺跡　飯田市山本4684ほか　調査期間：７月７日～10日　調査面積：230㎡

一段低くなった西側の畑地部分は昭和40年代の構造改善事業により壊滅状況であった。東側の宅地部分は丘陵頂部にあたるが、その南半には未収去の建造物があるため、今回は北半部の調査を行った。検出したのは甕形土器を埋設した遺構１基である。平安時代以降であることは確かだが、それ以上の特定は難しい。

久米ヶ城跡　飯田市久米1338ほか　調査期間：10月９日

久米ヶ城は城山山頂に主郭をもつ戦国時代の山城である。城跡範囲は城山山塊のほぼ全域に設定されており、飯喬道路はその北麓を巻くように通過する。平成14年度までの調査で５号橋以東の用地内には城郭関連施設は存在しないことを確認していた。今回は５号橋と４号橋間の現地踏査を行った。周辺部分も含めてくまなく観察したが、城郭関連遺構を推定しうるような状況は認められなかった。

川路大明神原遺跡　飯田市川路5613ほか　調査期間：７月14日～17日　調査面積：260㎡

遺跡西端部の傾斜地を調査した。微地形的には、南側に浅い谷状低地があり、北側にはそれに沿って尾根状微高地が延びている。微高地斜面から低地部にかけてトレンチを設定したが、遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

II　普及・公開活動の概要

1　現地説明会等

今年度発掘調査が行われた遺跡のうち、4遺跡で当センター主催の説明会を実施し、そのうち1遺跡は、地元のみに向けた説明会であった。このほか学校等による見学も受け入れ、埋蔵文化財の調査現場を公開した。

第57図　三角原遺跡での現地説明会

中野市月岡遺跡では、7月20日（日）に現地説明会を実施した。室町時代～戦国時代頃の屋敷跡および経塚を公開し、午前中のみで91名の見学者が訪れた。また、7月15日（火）には、地元中野西高等学校の生徒8名、教諭5名が遺跡の見学、および発掘体験をした。

三郷村三角原遺跡では、8月24日（日）に現地説明会を実施し、平安時代の遺構、遺物を公開した（第57図）。村内での大規模な発掘調査は初めてで、自分たちの祖先が暮らしていたムラの跡を一目見ようと、午前中だけの公開であったが、地元を中心に210名と多くの見学者が訪れた。2日後の8月26日（火）には、地元三郷中学校の1年生150名も見学した。

小諸市野火附遺跡では、10月25日（土）午後、現地説明会を実施し古墳時代の集落跡と出土した遺物を公開した。午前中には佐久市小田井育成会の小学生親子が体験発掘し、目を輝かせて発掘に土器の接合に時間を忘れて取り組んだ（第58図）。午前、午後それぞれ40名の参加者があった。

9月18日（火）、21日（日）の両日、地元説明会の行われた臼田町唐松B遺跡では、それぞれ約30名が参加がした。平日の見学では、縄文・平安時代の住居跡を実際に調査している様子を見学してもらい、発掘調査方法の理解に努めた。7月8日（火）には、地元青沼小学校の6

第58図　野火附遺跡小田井育成会の体験発掘

第59図　原林遺跡七久保小学校の見学

年生が26名見学に来ている。

そのほか、飯島町原林遺跡では、11月21日（金）に地元七久保小学校６年生30名が縄文時代の集落跡を見学に訪れている（第59図）。また、11月23日（日）、24日（月・振替休日）の両日、飯田市山本地区文化祭において、地元の公民館行事に参加するかたちで、竹佐中原、森林、下り松、石子原の各遺跡出土遺物および写真・文字パネルを展示した。

2　展示会等

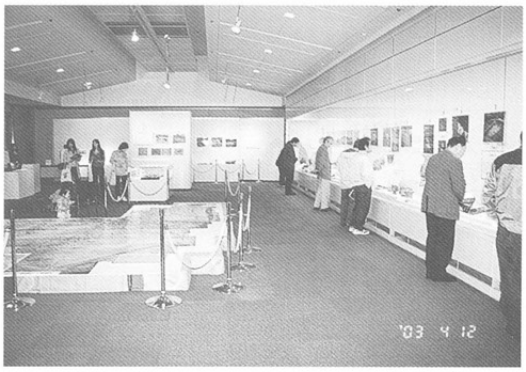
１）平成15年度長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘2003」

長野県立歴史館、長野県伊那文化会館と共催で、平成15年度に当センターが調査した遺跡の出土資料や関連遺跡の資料を展示する。今回は、考古学における年代決定についての解説、当センターの普及公開活動の展示も加え、センターの事業について県民の理解を得るとともに、長野県の歴史や埋蔵文化財について、県民の興味、関心、理解が深まることを目的とする。県立歴史館企画展示室を会場に３月13日（土）から５月９日（日）まで、伊那文化会館美術展示ホールを会場に７月１日（木）から11日（日）まで開催する。期間中、県立歴史館講堂では、４月11日（日）、今年度調査した５遺跡の報告会とともに国立歴史民俗博物館教授春成秀爾氏による「考古学における年代決定の最前線」と題した講演会が予定されている。また、伊那文化会館小ホールでも、７月10日（土）に飯田市竹佐中原遺跡を含めた５遺跡の報告会を行い、南信地方の県民に対する啓蒙活動にも努める。

〈展示遺跡〉26遺跡

飯田市：竹佐中原、下り松遺跡、信濃町：貫ノ木、仲町、川久保遺跡、坂北村：東畑遺跡*、望月町：平石遺跡*、臼田町：唐松Ｂ、三分遺跡、八千穂村：封地*、馬込遺跡、茅野市：聖石、中村・外垣外遺跡、飯島町：原林遺跡、千曲市：力石条里遺跡群、東条、峯謡坂、社宮司遺跡、佐久市：北畑遺跡、箕輪町：箕輪遺跡、豊田村：千田遺跡、小諸市：野火附遺跡、大町市：菅ノ沢、肩平遺跡、三郷村：三角原遺跡、中野市：月岡遺跡　*印は技術指導の遺跡で県立歴史館のみの展示、竹佐中原遺跡は伊那文化会館のみの展示。

なお、平成14年度速報展「長野県の遺跡発掘2002」は、平成15年３月15日（土）から５月５日（月）までの開催で、9,055名の来館者があった（第60図）。前年度速報展の同一日数（47日間）での来館者を比較するとほぼ同数であった。また、この速報展にともなって平成15年４月12日（土）県立歴史館講堂にて、豊田村千田遺跡、上山田町力石条里遺跡群、飯田市竹佐中原遺跡、小諸市鎌田原遺跡の調査報告会を実施した（第61図）。午後からの開催であったが、90名の聴講者があった。



第60図　平成14年度速報展展示会場

2）千曲市屋代駅市民ギャラリーでの展示「写真でみる‘長野県の遺跡発掘2003’」

恒常的に人々が集中する屋代駅において、周辺住民および通勤・通学者を対象に、当センターおよび埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうとともに、平成15年度速報展のプレイベントとして位置づけ、宣伝効果も狙った。平成15年２月23日（月）から３月３日（水）まで実施し、今年度当センターで発掘調査、整理作業をした25遺跡の写真・文字パネルを展示した。そのほか、現地説明会、体験発掘等の写真パネルを展示するとともに、埋文センターニュース等の普及公開関係の刊行物も展示した。

第61図　平成14年度速報展調査報告会聴衆

3）長野県庁１階ロビーでの展示会「長野県埋蔵文化財センター速報展2003」

長野県教育委員会文化財・生涯学習課の事業に協力し、県庁を訪れる県民を対象に、当センターおよび埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成15年２月23日（月）から３月５日（金）まで実施した。今年度当センターで発掘調査、整理作業を実施した遺跡から、話題となった信濃町貫ノ木遺跡の隆起線文土器、茅野市中村・外垣外遺跡の八稜鏡など８遺跡の遺物、および写真パネルを展示した。併せて、当センターの業務内容を紹介するパネルや埋文センターニュース等の普及公開活動についても紹介した。

3　指導

期　日	講　　師	指導内容
15/4/20 ～21	明治大学教授　安蒜政雄氏	仲町、照月台、貫ノ木遺跡の旧石器時代資料の整理と遺跡内容について
4/22	同上	竹佐中原、森林遺跡の調査について
4/23	梓川中学校教諭　臼居直之氏	箕輪遺跡の遺構の検出状況について
4/25	長野県遺跡調査指導委員　工楽善通氏	社宮司遺跡の六角木幢等の整理について
5/13	竹佐中原遺跡調査指導委員　松嶋信幸氏	森林遺跡の地質状況について
6/4～6	奈良文化財研究所　牛嶋　茂氏	社宮司遺跡の六角木幢等の写真撮影技術について
6/27	長野県遺跡調査指導委員　桐原　健氏	中村・外垣外遺跡出土八稜鏡について
7/11	出土銭貨研究会　藤沢高広氏	仲町遺跡出土の古銭の整理法について
7/29～30	六角木幢等整理検討委員　沢田正昭氏、藤澤典彦氏　武笠　朗氏、矢島　新氏	六角木幢の整理保存方法について
9/3	野尻湖博物館　中村由克氏	月岡遺跡のローム層について
9/1・6	獨協医科大学　桜井秀雄氏	峯遥坂遺跡出土の獣骨に関する指導
9/18～19	竹佐中原遺跡調査指導委員　戸沢充則氏、神村　透氏、佐川正敏氏、佐藤宏之氏、松島信幸氏	竹佐中原遺跡の今後の調査方法について
9/26・27	國學院大学　谷口康浩氏	貫ノ木遺跡出土草創期土器について
10/2	長野県臼田高等学校教諭　寺尾真純氏	唐松Ｂ遺跡のローム層と地形形成について
10/22	六角木幢等整理検討委員　森田　稔氏	六角木幢の整理保存方法について
12/3	長野県臼田高等学校教諭　寺尾真純氏	馬込遺跡のローム層と地形形成について
16/3/2 ～3	竹佐中原遺跡調査指導委員　戸沢充則氏、神村　透氏、松島信幸氏 奈良教育大教授　長友恒人氏 古環境研究所　早田　勉氏、杉山真二氏	竹佐中原遺跡自然科学分析結果検討会

4　刊行物

「一般国道（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書２　貫ノ木遺跡・照月台遺跡」

「　　同上　　３　仲町遺跡」

「　　同上　　４　川久保遺跡」

「国補緊急地方道路整備Ｂ業務（主）川上佐久線埋蔵文化財発掘調査報告書　離山遺跡」

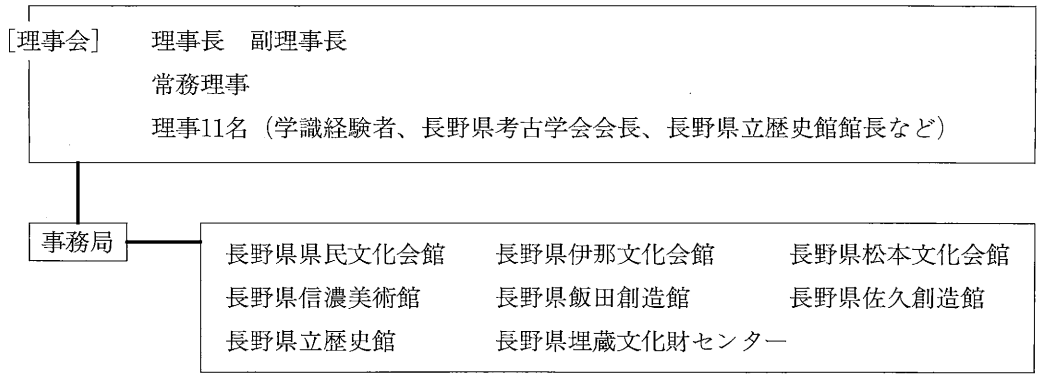
「県営畑地帯総合整備事業野辺山地区埋蔵文化財発掘調査報告書　矢出川遺跡群」

Ⅲ　機構・事業の概要

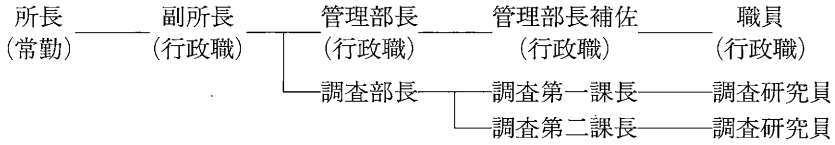
1　機構

(1)　組織

①㈶長野県文化振興事業団組織



②長野県埋蔵文化財センター組織図



(2)　所在地

千曲市屋代清水260-6

篠ノ井整理棟　長野市篠ノ井布施高田963-4

2　事業

(1)　調査事業

ア　発掘調査

中部横断自動車道関連　小諸・佐久市内２遺跡　日本道路公団東京建設局の委託

北陸新幹線関連　中野市内１遺跡　鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託

国道18号坂城更埴バイパス関連　千曲市内２遺跡　国土交通省関東地方整備局の委託

国道20号坂室バイパス関連　茅野市内１遺跡　国土交通省関東地方整備局の委託

国道474号飯喬道路関連　飯田市内９遺跡　国土交通省中部地方整備局の委託

千曲川替佐築堤関連　豊田村内２遺跡　国土交通省北陸地方整備局の委託

国営アルプスあづみの公園関連　大町市内４遺跡　国土交通省関東地方整備局の委託

あづみ野排水路関連　三郷村内１遺跡　農林水産省関東農政局の委託

県道川上佐久線改良関連　臼田町内1遺跡　長野県土木部臼田建設事務所の委託
県道田口バイパス関連　臼田町内1遺跡　長野県土木部臼田建設事務所の委託
県道天神バイパス関連　望月町内1遺跡　長野県土木部佐久建設事務所の委託
国道153号伊那バイパス関連　箕輪町内1遺跡　長野県土木部伊那建設事務所の委託
県道力石バイパス関連　千曲市内1遺跡　長野県土木部千曲建設事務所の委託
広域農道佐久南部関連　八千穂村内1遺跡　長野県佐久地方事務所の委託
県単農道関連　飯島町内1遺跡　長野県上伊那地方事務所の委託

イ　整理事業

国道18号野尻バイパス関連　信濃町内４遺跡　国土交通省関東地方整備局の委託
県道川上佐久線改良関連　臼田町内１遺跡　長野県土木部臼田建設事務所の委託
国道153号伊那バイパス関連　箕輪町内１遺跡　長野県土木部伊那建設事務所の委託
県営畑地帯総合整備関連　南牧村内１遺跡　長野県佐久地方事務所・南牧村の委託

ウ　保存処理　中川村、上田市、安曇村の委託

エ　技術指導

坂北村、望月町、八千穂村に調査研究員各１名の技術指導を実施

(2)　事業費

中部横断自動車道関連：112,000千円、北陸新幹線関連：33,042千円、国道18号野尻バイパス関連：61,257千円、国道18号坂城更埴バイパス関連：93,030千円、国道474号飯喬道路関連：80,014千円、国営アルプスあづみの公園関連：29,187千円、千曲川替佐築堤関連：10,000千円、あづみ野排水路関連：44,487千円、県道川上佐久線関連32,892千円、県道田口バイパス関連：30,202千円、県道天神バイパス関連：9,924千円、国道153号伊那バイパス関連：28,148千円、県道力石バイパス関連：113,650千円、広域農道関連：23,607千円、県単農道整備事業関連：6,162千円、畑地帯総合整備事業関連：4,443千円、保存処理関連：670千円、研修事業：500千円

(3)　普及活動（30ページ参照）

(4)　職員研修

ア　講師招聘および来所による指導・講習会等（33ページ参照）

イ　学会関係研究会・研修会・講演会

期　日	参加者	内　　容
15/4/19･20	谷　和隆 鶴田典昭 大竹憲昭	シンポ「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」長野県旧石器文化交流研究会
6/7	西山克己	「長野県の古墳時代における地域相と渡来文化」上田郷友会
6/28	黒岩　隆	「縄文時代の巨木木柱―木柱に込められた思い―」信州縄文研究会
10/3	川崎　保	「中部高地のヒスイ研究の現状と課題」玉文化研究会
11/29･30	寺内隆夫	「地方豪族拠点開発をめぐる環境問題」古代考古学フォーラム

11/29･30	大竹憲昭	ナイフ形石器文化前半期の地域性と集団「中部・関東地方」中・四国旧石器文化談話会シンポ
12/13	廣田和穂	「縄文中期後葉の一様相」信州縄文研究会
12/13	川崎　保	「東アジアにおける玦状耳飾をはじめとする装身具セットの起源と展開」シンポ「環日本海の玉文化の始原と展開」
12/20･21	大竹憲昭	「中部・北陸地方における後期旧石器時代初頭の文化」シンポ「後期旧石器時代のはじまりを探る」日本旧石器学会
16/1/17	市澤英利	「信濃の国　入口、出口」長野県立歴史館手前味噌講座
2/7	谷　和隆	「神子柴文化と土器の出現」同上
2/11	大竹憲昭	「信州にはじめて住んだ人々」同上
	鶴田典昭	「野尻湖遺跡群と草創期の土器」同上
1/25	市澤英利	「最近の発掘調査から」伊那史学会
2/7	河西克造	「松本盆地における中世城郭から近世城郭への変遷」松本市遺跡発掘報告会
2/11	藤原直人	「中村外垣外遺跡」諏訪地区遺跡調査発表会　諏訪考古学研究会
2/29	柳澤　亮	「東畑遺跡（東筑摩郡坂北村）」松本・木曽地区遺跡発表会
	廣田和穂	「三角原遺跡（南安曇郡三郷村）」同上
	平林　彰	「県内動向（2003年）」同上
3/13	西山克己	「飯田・下伊那の古墳文化から伊那郡衙へ」飯田市上郷考古博物館春季特別講演会
そのほか、各種学会、研究会、シンポジウムなどへの参加多数		

ウ　県外博物館・埋文センター・遺跡等視察および資料調査

期　日	参加者	視察・調査内容
15/5/26～27	谷　和隆 鶴田典昭	國學院大学考古学資料室、かながわ考古学財団、東京都埋蔵文化財センター
6/10～7/18	豊田義幸	奈良文化財研究所　埋蔵文化財発掘調査技術者一般研修「一般課程」
8/6～8	川崎　保	木曽広域連合、中津川市、神坂峠、阿智村教育委員会
8/27～29	町田勝則	石川県埋蔵文化財センター、小松市教育委員会
11/22～23	上田　真	奈良文化財研究所「古代の土器研究会」
11/26～27	平林　彰	新潟県埋蔵文化財調査事業団、群馬県埋蔵文化財調査事業団
11/29～30	石上周蔵	帝京大学山梨文化財研究所「古代の社会と環境」
12/6～7	廣田和穂	京都府社会福祉会館「中世土器研究の今日的課題」
16/1/27～28	贄田　明	千葉県立中央博物館
2/12～14	西山克己	国立歴史民俗博物館、東京国立博物館、国立科学博物館新宿分室、相模原市立博物館
2/17～20	大竹憲昭	奈良文化財研究所　埋蔵文化財発掘技術者特別研修「自然科学的年代決定法課程」
2.19～2.20	西　香子	愛知県埋蔵文化財調査センター、豊川市教育委員会

エ　全埋文協などへの参加

期　日	会　議　名	開催地	参　加　者
15/4/25	全埋協中部・北陸ブロック連絡会	富山市	原　聖、廣瀬昭弘
6/12～13	第24回全埋協総会	大阪市	深瀬弘夫、市澤英利
10/23～24	全埋協研修会	東京都	原　聖、廣瀬昭弘、藤森富士子
10/30～31	全埋協中部・北陸ブロック連絡会	名古屋市	上原　貞、佐々木大介、平林　彰、谷　和隆
10/30～31	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	東京都	大竹憲昭
11/27～28	関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会	横浜市	町田勝則、藤原直人

オ　県内市町村および関係機関への協力・指導等

期　日	市町村名	協力・指導内容	協力者
15/5/2,11/27	長門町	星糞峠黒曜石原産地遺跡整備委員会	大竹憲昭
6/21	三郷村	楡の歴史を学ぶ会の三角原遺跡での学習会	廣田和穂
7/18,10/1,27,12/24	佐久市	県史跡伴野城保存整備、発掘･整理指導	河西克造
7/28,8/24	小布施町	「わんぱく教室・土器つくり」指導	鶴田典昭
8/4	下伊那教育会考古学委員会	阿智村杉の木平遺跡出土貿易陶磁器、中世陶器について	市川隆之
9/7	中野市	中野の焼物事情展に伴う「くるま座講演会」	市川隆之
9/17	茅野市	尖石遺跡発見遺物の鑑定指導	鶴田典昭
10/15	県教委	「長野県本発掘調査積算基準」策定検討部会	市川隆之、鶴田典昭
10/16	県教委	市町村発掘担当者技術研修会	黒岩　隆、若林　卓
10/30	中野市	中野市歴史民俗資料館専門委員会	黒岩　隆
11/14	坂北村	筑北教育振興研修会	柳澤　亮
11/15	飯田市	飯田市上郷考古博物館　秋季展示講座講師	桜井秀雄
11/30	望月町	平石遺跡発掘調査現場説明会	川崎　保
12/1	臼田町	原遺跡試掘調査立会い	桜井秀雄
16/2/16	新潟県	道灌林遺跡整理指導	寺内隆夫

カ　資料貸し出し

遺　跡	貸し出し資料	貸し出し先・目的
中村外垣外・三角原遺跡	写真・図	ジャパン通信「文化財発掘出土情報」
貫ノ木遺跡	写真	信濃毎日新聞社
篠ノ井遺跡ほか	写真	長野市民新聞「古代への招待状」
	写真	ながの農業協同組合「Vivid」
竹佐中原遺跡	石器写真	日本考古学協会
聖石遺跡	土器実測図	茅野市教育委員会「平成14年度茅野市尖石縄文考古館報」
社宮司遺跡	六角木憧、緑釉陶器、墨書土器ほか	千曲市森将軍塚古墳館「地下に眠る古代の更埴」

平成15年度役員および職員

所長	深瀬弘夫		
副所長	原　聖		
管理部長	原　聖（兼）	調査部長	市澤英利
管理部長補佐	上原　貞		
職員	佐々木大介（主幹）　藤森富士子（主事）		
調査課長	廣瀬昭弘　平林　彰		
主任調査研究員	大竹憲昭		
調査研究員	市川隆之　石上周藏　上田　真　宇賀神誠司　河西克造　川崎　保 黒岩　隆　小林秀行　桜井秀雄　田中正治郎　谷　和隆　鶴田典昭 寺内貴美子　寺内隆夫　豊田義幸　中島英子　中野亮一　贄田　明 西　香子　西山克己　廣田和穂　藤原直人　町田勝則　山崎まゆみ 柳澤　亮　若林　卓		

長野県埋蔵文化財センター年報20　2003

発 行 日　平成16年３月30日
編集発行　㈶長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒387-8007　長野市篠ノ井布施高田963－４
TEL　026－293－5926
印　　刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037　長野市西和田470
TEL　026－243－2105